●本誌發送の義は凡て前金の定めなれども引續購讀の方々には前金相切れ候とも御斷無之間は依然發送致すべく候間爲念申置候也●

第四百六十號目次

◎社　説

支那人果して保守か

◎女　學

師弟微妙の感應

米國留學一女生の田舍日記（其二）

日本全國基督新教女學校現在表

佛教主義の婦人會

◎評　論

裸体畫の可否を論ず

詩的裸体畫贊論の一節（モデルは破倫に非ず）　　靑柳有美

◎教　育

當今の學風、空疎淺薄に非ずや

臺灣教育の統計◎小學教員に就いて◎哲學者◎倫理教育の價値◎海外教育界

◎隨　感

孔夫子◎豐太閤◎湖南の吊文◎中江兆民氏の檄

◎雜　錄

楚些錄

（祭故嚴本嘉志子君文（櫻井鷗村）◎寄鍔憫哲（湯谷紫苑））

婦女の凌辱　　曲汕

◎時　文

芳野山、天地の戀（花影）◎各地方の手鞠歌

◎片々◎時報

川崎大尉◎扇拍子◎新小說◎新著月刊

社　告

◎本誌は每月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や簡易實際を專にし、家庭の整理改善に益ある事項を主として、第一、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、其他、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。

◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるものあらば其望に應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金	壹冊	定價 金拾錢
	半年前金	金壹圓拾錢
	一年前金	金貳圓　（内國無郵稅）
	代金は凡べて前金の事◎前金切れ候とも御斷無之間は引續き發送するとも可有之事	
廣告料	一行一回（廿七字詰）	前金拾錢
	同　三回以上	一割引
	同　六回以上	二割引
送金	爲替は東京本郷駒込郵便支局に宛て小爲替にすべし○郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割増を添ふべし	

明治廿七年二月十九日内務省許可

明治三十一年二月二十四日印刷

明治三十一年二月二十五日發行

東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚六百六十番地

發行兼編輯者　巖本善治

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地

印刷者　島保巖

東京府北豐島郡巣鴨村字庚申塚二百四十六番地

發行所　女學雜誌社

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

印刷所　株式會社秀英舍第一工場（電話本局十九番）

社　告

櫻井成明譯　**腓立比物語**　正價金二十八錢　郵稅金六錢

横山雅男著　**婚姻論**　正價金十二錢　郵稅金四錢

若松賤子譯　**小公子**　正價金三十五錢　郵稅金八錢

若松賤子英文集　**巖本嘉志子**　正價金六十錢　郵稅金六錢

布川靜淵、故小此木秀野合著　**俳諧史傳**　正價金二十七錢　郵稅金四錢

故鈴木弘恭述　**百人一首講義**　正價金二十八錢　郵稅金四錢

同　**文法口授**　正價金十二錢　郵稅金二錢

●前號（二月十日發行第四百五十九號）要目

●庭前の花圃●海舟先生の家政經濟談●某小學校女生徒の正月日記●國藪その春のころ●源平二氏（第二）●水禽の詩●隨感（紀念日○一兩万決○無冒俊傑時務を識る）●怪賊靜馬の話（上）●故小柴秀野君の絕筆小說●

大日本女學會

會員募集廣告

總裁小松宮妃殿下副總裁鍋島侯爵夫人

●本會賛成員は有栖川宮大妃殿下華頂宮妃殿下を始め奉り貴婦人方八十八名

趣旨 本會の趣旨は女子教育の普及發達を圖らむかため女學の講義錄を發行し入學すへき女學校を設けなき土地に住める者又は父母のもとを離れ難き事情ある者をして居なからに通信教授を受けしむるに在り其講義は極めて平易懇到を旨とし實踐の用に應し輕佻の風を避け以て賢良貞淑の品性を涵養せむことを期す●本會は明治廿八年の創立にして三千の會員已に第一回の講修を終りたれは今や新に學科を增設し紙面を刷新し更に第二回講修期を開き新に會員を募集す志ある淑女達とく入會あれかし何時入會あるも第一卷より送本差支なし●本會講義錄は女學講義と稱し長くも 皇后陛下叡覽を給ひ特に大御歌下賜の光榮を辱うす一卷の紙數菊判二百頁以上の優美なる大冊子にして毎月廿五日發行す總て講義の質問に答へ歌文習字の添削批評をも爲す●會費一箇月參拾錢束修參十錢●會則希望者は郵券貳錢を添て申込あれ

學科及び講師 演說せられたる者に係る●修身(女子修身談)細川華族女學校長が從來同校に於て(禮法)佐方女子高等師範學校教諭●國語(國文)關根學習院教授(作歌)大口御歌所錄事(作文文法)今泉城北中學校長●漢文、土屋華族女學校教授●歷史(日本歷史萬國歷史)大森文學士●地理(日本地理萬國地理)喜田文學士(地文)脇水理學士●理科(物理化學)近藤工學士(博物)石川理學博士 生理衞生)未定●家事(家庭教育)三輪田高等女學校講師(家事經濟)後閑女子高等師範學校教諭(家事衞生)三宅醫學博士(小兒衞生)三島醫學士●割烹、御園華族女學校教員●小兒心理學、下田文學士●裁縫、渡邊東京裁縫學校長●習字 坂華族女學校教授●音樂、未定●手藝(活花點茶)田邊東京女學館講師

附錄●史談下田華族女學校學監●小說、逍遙學海紅葉三大家●お伽譚、漣山人●詞藻●質問應答雜報雜錄

第二卷既に發行せり 東京市麴町區土手三番町二十八番地 **大日本女學會**

東京裁縫女學校々長渡邊辰五郎著

裁縫教授書

全部三冊 定價金一圓

取次販賣 東京巣鴨村庚申塚 **女學雜誌社**

◎**耳科醫院**新築に付**移轉**◎

診察時間 午前八時より正午迄

(本郷區元町一丁目二番地 水道橋外 金刀比羅社東隣)

ドクトル **小此木信六郎**

女學雜誌一手賣捌

東京神田表神保町 **東京堂**

社會學社會問題及社會政策之評論

社會雜誌

『日本宗教』合併より大改良

二月發兌

十號要目

臺灣は別莊の如くせよ……社説
今は現に幕末に似たり……社説
尚ほ議會に熱する者あり……社説
社會研究の方法如何……呉文聰
犯罪と教育との關係……小河滋次郎
社會學一斑……高木正義
青年學生墮落の由來……山形東根
凶荒の説……藤井米八郎
徒弟學校に就て……佐久間貞一氏談
外資輸入の空論題……
亡國の徵……
內地雜居準備問題(外人の土地所有◉商工業界及教育界の問題)……
各地方に於ける細民救濟の方法……
地主問題(地主の恐慌來に就て評論す)……
日本基督教界の將來……評論子
日本佛教界の將來……教界子
◉正月に關する日本人の宗教思想◉基督教會と社會との關係◉國教請願とは何の謂ぞ◉內地雜居と國教◉上流中流下流の傳道法◉日本に於ける基督教の事業◉社會。宗教時事十數件
宗教論壇◎社會論壇細見表

定價一冊拾錢郵稅一錢六冊郵稅共六拾五錢一年分十二冊壹圓貳拾錢凡て前金を要す爲替振込は麴町局宛

發賣元 東京麴町區下六番町六 社會雜誌發賣所

出版界無比之高評

訂正增補

東久世伯題辭
依田學海先生序文
青外井原豐作先生編

學生寶藏 美文良材 袖珍美本

洋裝全壹冊紙數二百頁
正價金廿錢郵稅四錢
郵券代用一割增

增訂五版發賣

再版出來

發賣元 東京神田表神保町 東京堂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第四百六拾號

明治三十一年二月二十五日發兌

社説

支那人果して保守か

明治初年より十年に至る比ほひ迄、最上の呪の言葉は、頑固舊弊と云ふ言にてありき。もし一と度び頑固と云はるゝ時は罪人と云はれたると等しく、舊弊と云はるゝ時は、大悪人と言はれたるに同じき程にて、人の最も懼るゝは、即はち、頑固舊弊と言はれまじき掛念にてありき、蓋し是れ維新大勢の餘波にして、當時にふさはしき影響なり。人心の激する所、一鼓して此の潮流を來せるは、神經過敏の我が國民には似つかはしき結果なり。素より奇しとす可らず。

夫れ、日本の周圍、海洋をもて環らす。些しく高きに登れば山中尚ほ白波を望み見ることを得べし。凡そ平野を望むものは囚はれを嫌ひ、蒼海を望むものは、飄逸の心地を起すを人の通情となせば、日本國民の如きは、元來、四方漂遊の氣象に富みたるならん、斷じて、鎖國閉家の因循に滿足すべきものにあらざりしなり。此を以て、神祖、日本人種を海外より誘ひ、誘來たる感化久しく張り、彼等は、孤葉に托して對岸に登るを物の屑とせず、多年、唐韓の濱邊に往來して、毫も海上を恐るゝことなかりし也。但だ一旦徳川氏の鎖國政策施されて、大船禁ぜられ、交通遮られ、貿易制められて、國民暫らく鬱閉せり。

然りと雖ども、人爲の力なきは、天爲の力あるに及かず。故造究屈の制裁は到底久しきに持續しがたく、海外海内の氣勢頻りに促がして、幕府の末年は遂に開港に決し、維新の王政は更に擴張して則はち惣べて廣く隆んに世界に求むるの大氣運を開きたり。反動一と度び決して、急進の勢、猛烈となりあらゆる保守の態度を悪みて、頑固舊弊の一句を最醜最下の罵評の語となし了りたるは、當然の數なり。

此に於てか、昔し甚だしく支那に崇拜したる迷謬は、今より甚だしく之を侮蔑するの誤解となれり。彼の急進に狂熱せる眼中には、支那の舊態依然たるを見て、馬鹿らしき事の最上としたり。彼等が、豚尾を結び、濶服を穿ち、依然たる昔時の不潔を顧みざるを目して、野蠻の遺習の去りがたきものと見做し、其の電信を利用せず、滊車を布かず、銀行を建てず會社を設けざる等によりて、甚だしき時勢後れと認めたり。之よりして、支那人を評すると万口一様に、保守と云ふ。其の習慣を罵りては、未開化と言ふ。支那は到底文明國の仲間に入りがたきものとするは、日本人中の輿論となれり。之れ果して眞なる乎。

就中、新日本の誇りとする所は、其の立憲政躰なるものを創建したりと云ふの一事にあり、而して、支那を輕蔑するに最大有力なる理由は、渠が立憲政躰を用ひざるの一事にあり。夫れ、維新の改革は、薩摩實に元動たり根底たりと雖ども、他の長、土、肥、及び天下の俊壯多く之に加擔して、之に潤色したるの故をもて、新政初めて成るの日、自から衆議を採るの必要を生じたり。況んや、幕府の責任内閣は、專制獨裁にして、所云る輿論に責めを負はざりしの故によりて倒れたるかの形狀あるが為めに、「公議輿論に決す」と云ふは則はち當時一世の趣好に適せり。斯の如くして、公議輿論の一句は無上の眞理圓滿の希望となりて、明治維新の祝福の理想となれり。遂に明治三十三年の議會開設を見るに至りたるは、畢竟、此の流行の餘波たる耳。而して、此の流行の結果とて現に議會を得たるの今、抑も立憲政躰なるものの實際の價値何處にありと知りたる。

抑も、立憲政躰と云ひ、專制幕府と云ひ、郡縣自治と云ふとの如き、畢竟、政治の名目外形に外ならず。もし國家實際の發達に隨ひて、名を實の爲に賓來する當然の稱號たらしむるとをせず、徒らに、外形を飾り名目を更たむるに過ぎざらしめば、國家生命の損益に於て、何等の價値もなき也。維新以后三十年、試みに其名目と外形とを變じて以て西洋風交際の便利に供し、所云る政治的式服を着用するの識見をもて暫らく政躰の姿を當世風にしたりとせば、亦或ひは可也。當に之と同時に他の實際に着眼し、事實の上に於て嚴かに國家の進歩に盡力する所あるべかりし也。惜しい哉、三十年の政治、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

徒らに、空文徒法の改進に拘泥し、國家實力の發達に於て至大の遺憾あらしめたるは誰の責ぞ。

此時に當りて、飜つて支那人を見よ、彼等果して保守なるか。其の衣服を變へず、其の頭髮を改めず、其の言語を外國風にせざるときは、則ち保守なる乎。抑も問はん、斯の如き實用以外の變更、即はち虚飾無用に似たるの改化を敢てせざるとき乃はち保守などとせば、大凡そ無益なる流行に感激せず、實用にあらざる虚飾の仲間入をせざるものは皆な保守なるべし。左らば吾人は寧ろ保守なるものを榮として、他の開化なるものを忌まんとする也。

乞ふ見よ。支那人は、電信鐵道の布設等に注意せざるものなる乎。彼等は、實益の未だ多からざる時、無理に之を設けんとはせざりしなるべし。政府の保護金を受けて之を設けんとはせざりしなるべし。危險なる會社組織即はち今の日本の諸會社が既に陷りつゝある如き危險を犯して之を設けんとはせざりしなるべし。何となれば、彼等は、見榮の爲に之を設けんとするにあらず、只だ實益の爲にせんとしたれば也。然るに今や西洋諸國の東洋貿易熱正に酣熱し、諸國爭つて、其地を借りて自由開港の地となさんとするに至れり。此時に際して支那の政治家ば、外面澁々とし、内心寧ろ機到れりと拍手し、漸次に其地を貸し、又は其權を分ち、以て外國の資金と勞力とを以て、其國内に文明實益の器械を布かんとせり。今や、我國に於ては、外資輸入可否の論あり、然るに支那人は斯る空論に日を消すほどの保守者にはあらず。既に其の政府も、個人も、夙に多く外資を輸入し、今又其地を貸して盛んに外資を輸入せんとせり。抱負度量何ぞ壯大なるや。此時に際して、日本人よく改進か、支那人乃はち保守かと疑問し得るもの何處にかある。

支那人は、條約改正論に熱中せず。然し乍ら、其條約は實際に於て改まり居る也。支那人は、土地を奪はるる如し、然し乍ら土地を與へて而して實際の益を收むるものは渠等なり、與へて而して取るもの、之を奪はるると云ふべき乎。彼等の政治と社會とは全く別物となれり、彼等は極端なる自治制度を取れり、渠等は無上なる平民主義者なり。所云る、日本人の今ま隆んに名に於て渴望しつつある所のもの、既に支那人に於て其實を有するを見ずや、支那人果して保守乎。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

抑も、保守、改進、何れか好き。もし斯の如く問ふものあらば、畢竟愚人のみ、保守、改進、双ながら存せずんば、如何ぞ生存と進歩とあらんや。唯だ一時の機勢に乗じて、其の一つを專らにせんとするは、到底、流行渦中の惑溺たるのみ。維新以來、急進に僻して、保守を罪し、保守を罪して、支那人を阻へるもの、今少しく夢を破つて可なり。蓋し、保守、改進の別は、遂に名の別のみ。要ある所は、實地實際の進歩を主旨とす。若し、尤も少き入用をもて、尤も多く尤も手堅く實益を收めんとせば、其の行爲寧ろ保守の姿に似る。然れども是れ保守にあらず、着實堅牢の進歩たる也。支那人や、舊國に居て經驗多く、戰亂と逆境とに慣れて屢ば惡政の苦を受けたり、彼等が事業上の習慣は、此を以て、尤も確實に尤も實際に、尤も入費少く、尤も遠大に計畫遂行せらるるを常とす。之れ其の外形の保守に似て、時に甚だ痴迂たるの觀ある所以のみ。然りと雖ども、一と度び、逆境に處して人生不時の變化に鑑みるものは、即はち初めて支那人流義の決して痴迂にあらざりしとを覺り、痴迂は他なし、畢竟、輕薄なる自己の似而非文明にてありしとを感ずるものもあらん。今や則はち支那人果して保守かと警念するに恰好の秋也。

無名な道をして樸を守る、樸散じて器となる。

感時花濺涙、恨別鳥驚心

女學

師弟微妙の感應

師弟の道、古への如くならずとは、屢ば今人の不平として痛論する所なれども、抑も其の古への如くならざるに、已むを得ざるの理由あり。本來、致し方なき當然の結果と謂はざるを得ず。昔は、一人の師匠、一卷の書を教へて、之に百般の心得を籠らせたれば、弟子は此の師匠を敬重摸倣の中心として二念なく渇仰頂禮したり。弟子は決して師に優らず。優るとを得ざるは當然の數にて、師匠は數十年間、唯一に專攻し、若年なる弟子の迚も追付きがたき上達を遂げたれば也。其の

懸隔斯の如く、隨つて其の從學も年長く、一生大抵驥尾に附かざるを得ざる程なれば、其關係の濃厚にして且つ優渥となるは怪しむべきことにあらず。之に反し、今の師たるものは大抵一二學科の專門者にして、一身百科を教ふるものとては無し。即はち、現に師たるの名を有する間にも、他の學科に於ては、其弟子に劣るの實狀あり。況してや、其の教ふる學科に於ても、弟子專修の上達は迅速にして、數年ならざる間に、曩の教師に優りたる學者となることもあるべし、勢ひ斯の如くなれば、師弟の關係は。只だ一に學科の關係にして、夫すら五六年以上に渡るものは少なし、其の間柄の淡泊にして淺々しきは止むを得ざるの數なり。

左り乍ら、學校は、國家と家庭との仲間に位して、其の中途の年齡に必要の開發を促がすもの也。たとひ、師長尊敬の氣風を昔時の如く長く所有せしむる力はなくとも、其の短かき年月の間に於ては、亦た短かき間だ丈けの感化力なかる可らず。長は短の接續にして、其の質には異同あるまじきものゆゑ、たとひ短年月の間なりとも、此間に於ける師長尊敬の性情を十分に開展せしめざる可らず、此の趣意に於ては、今の

師弟の古への師弟の如くならざるは即はち欠典なり。當に必らずや補正すべきの要務なりとす。

且つ夫れ、今の學校に於る、師長尊敬の念薄きは、其の德操と禮道とに於て足らざる所の存することを示すのみならず、併せて、其の學問の圓熟活了するに至らざることを證す、之が修學上の工夫に於て、深く考料を要すべき處とす。

夫れ、分拆と綜合とは、其一を欠く可らず。學科の分ちと其の統一とは教育上に於ける至大肝要の務なり。天地人生もと皆な實際に分離あることなし、唯だ之を學ぶに於て分科別目にするは、事の便利に從ふの主旨のみ。空の鳥と、野の百合の花と、實際に於ては全たく別物たるにあらず、其間一道の脈絡相通じて走る。之を其の通ぜるまゝに學得せざれは則はち學の眞相を識得すること能はざる也。學問の空文に流れ、其の實際に徹しがたき所以の一は、之を分科別目にして、個々に學習し、以て其の間の生命を感得することをせざるの故也。

此を以て、一學校に十數の學科あり、隨て十數人の教師ありとも、此等十數の學科に照應あり、脈絡あり、統一あり、同化あり、生氣貫通するありて、其の學生の頭腦に入ては、遂に、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

縫目なき一道の意識となり、融化渾熟、所謂其の生命の機秘に混淆し得るに及び、初て可なり。斯の如きには、學科に調和融通のある如く、教師一統にも和睦同氣あり、而して、其代表は、學校の特色となり、校長の感化となりて、以て能く一學校、一同躰の姿を表し得る程とならずんばある可らず。

其の實にして若し斯の如くは、弟子の其の教師を敬重する親愛景慕の趣きは、たとひ其外形を異にするとも、其內容に於ては、則はち昔日に於けると相違ふとなけん。之れ禮に於て其の師を敬重するに至るべき「道德上の勢力」ありてのみの故にあらず、其の勉學上の智的感化に於て、遂に斯の如く其の師を愛慕せざるを得ざるの「智力上の勢力」ありての故に由る。

此を以つて知る、今の師弟間の道の破れたるは、單に其の道德上の感化力の薄弱なる故のみにあらず、亦實に其の智識上の感化力の淺劣なるが故なり。惟ふに弟子もし斯の如き程度の智的感化を蒙むるのみにして止まば、其得たる學力は不統一にして生命なし、之に氣韻あるとなし、活氣あるとなし。則はち實際にも用ひがたく、則はち自から樂しむの道となるともなし。一言せば、生命として與へられざりしが故に、亦た生命として存在せざる也。これ豈に今の學校教育の短所に非ずや。

此故に、學科の編製に重んずる所は、其の照應と脈絡とにあり。彼等が、相抱合同化して、活ける天地人生の實相とならんとを要するにあり。教師の教授に重んずる所は、他の學科の教授を連續せしめ、融和せしめ、活動せしめ、以て一貫通徹せる活ける精髓の學問を寫せしむるとを要するにあり。之を學科の經濟もしくは調和と云ひ、之を教師の連合もしくは和熟と云ふ。而して、其の主要精心の責任を負ふものは、學校長もしくは教頭なり。

校長教頭は、必らずしも一學科の教師にあらず、否な、寧ろ一學科に重きを置かざるを當然とし、あらゆる學科を平等に見て、其の惣て。一躰に緊要なるとを認たむべき態度に立ち、其の識を以て諸科目統一の中樞となり、其の身を以て諸教師和熟の地盤とならずんばある可らず。其の弟子に對するや、抱合せる活ける實際問題の解釋に任ずるを要す。故に、天と地と人生との最后の問題即ち、他の一學科に於て答へざるべき問題に於て、確然として明朗なる答釋を與へざる可らず。

其諸教師に對するや、複雑せる實地の要務の上に最后の責任を負ひ、凡そ、尤も危きもの、尤も困しきもの尤も憂はしきもの、即はち他の一教授が敢て任とせざるべき大躰の大責任に向つて、身を獻ずるの覺悟なかる可らず、校長教頭にして、此の抱負なく、此の自信なくんば、學校よく立つことなし。學校よく立たず、如何んぞ能く弟子をして立たしめんや。校長教頭にして、他の教授中に、此等の責任を盡すに於て自己に優れりと信ずるものあらば、則はち之に讓らざる可らず。彼等先づ、優れたるものを敬重せず、如何んぞ、弟子をして能く學ばしむることを得んや。凡そ、校長教頭にして此の敬愼なくば、學校内必らずや風波あらん。

凡そ、一波の動くも風あるを示し、一葉の落るも秋の近きを告ぐ。教育者たる者自己の教育抑も何事ぞ、仔細に校内の狀況に視察して、其元因を自己に反省し、中夜獨り心を勞して、嚴かに、自から學ばゞ、精感知らざる間に通じ、子弟言はずして改ためん、夫れ、教んとする者未だ能く學ぶことをせずして、如何んぞ能く稚心の兒輩に學徹せしむることを得ん一心是れ万事の基、校規擧らずんば、須らく先躬から責べきのみ。

米國留學一女生が田舍日記 （其二）

六月二十一日

をかしな人間ほど、をかしなものは又外にない。此家に泊まるタスカーなる旅人は、小男で髮の毛が薄くて、ちやうど日なたに出しても、中暑しさうな意氣地なし。此男の好物は二輪車にのり廻ることと烟草をくゆらすことだ。此男の崇拜者は、トルストイで、たのしみとする所は、音樂をきくことだ。かつて自分が天より授かつた職業は、音樂師となることだと信じてをつたが、家が貧しくて果さず。其後は何の業に手を出しても失敗して、自分の愛する女にさへ棄てられて、一度はピストルで自殺せんと計つた。經驗は彼の精神を健康に發達せしめず、却て彼に一種の苦味を與へた。昨日の午飯後、村の牧師の妻と三人の子供とが、家を見廻つた時、實に子供は無邪氣でよいと、自分がいつたら、彼は冷笑して、併しすぐ世界に持ち出す彼等の善心は、到底長もちせぬといつた。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

此男に對して、自分の最も氣にくはぬとは、ぜんの日曜の晩、なんだか、ミルトンのキリスト評を、家のおかみさんと、はなし合つて、自分が野に夕日をながめて歸り來つた時、彼女にパラダイス、リゲエンドの、或部分を讀聞かせて居つたが、詩の抑揚、發音法にもかまはず、亂雜に、低聲で、くだらぬ新聞でも讀んで居るかのやうに讀みこなして居つたことだ。彼の聲は、聖き詩髓を汚すが如くに自分は考へた。

六月二十三日

今日は夏のなまぬくい風が吹いて、迚も日中讀書も出來ず下唇を虻がさして、あたりが脹れてうるさく、おもしろくもない日だ。林檎園の樹の蔭に坐れば、又虻にさゝれるかもしれんから、今日は朝のうち、樹園をあるきどうしに、歩いて居つた。嗚呼夏の日中、樹の葉も、日光に照りかへされて、生躰なささうに、我脳も靜まりかへつて活氣がない。

六月二十八日

子を育てるとは、實にむつかしいものと見える。嚴に過ぎても不可、寛に過ぎても不可。寛にすぎての結果は、實に弱心の人間をこしらへると感ぜしむるとは、自分が一人の旅人に對して抱いた考へだ。彼は縷々たる經驗談を語り出しぬ。彼の父は紐育の大商人にて、富有の人と聞え、彼と其妻との間に、二人の男子があつて、此旅人は、即ち季のアルボルドである。彼が一週間の小遣は五十弗で、何不自由なく、子供の生涯を彼の兄と共に暮したが、よく世に在る親の悪しき風習は、子供に對する愛に差異をあらはすとだ。彼の父は、彼の兄を愛し、彼の母は彼を非常にいつくしみぬ。但しかしこき婦人の愛は、生命の樹の甘露のやうであるが、愚なる女の愛は、阿片の汁のやうだ。此アルボルドの母は、決して愚なる女とはいひがたかりしも、唯夫の機嫌をとり、酒の相手となる美容あるに過ぎなかつた。彼は智識なく、信仰もなき女であつた。此女に育てられ、愛せられし第二男は、一個の身躰も精神も柔弱なるアルボルドと生長した。兄は幼時を學校にすごし、彼の幼時を母の膝下に、飴をなめつゝ過しぬ。兄は數々父の書齋に讀み彼は常に母の袂にしがみつき居りぬ。黑幕の威勢をもて、

彼れは幼時兄よりも多くの菓子を得、兄よりも多くのおもちやを弄びぬ。彼はむしろ家の寶なりき。母の慰め、話相手、接吻の友なりき。彼十七才、兄十九才の時、父は急病にて身まかりぬ。兄はそれより、獨立の精神をいよ〳〵堅固にし、彼は母の分持せし財産に、自然に望をおくとをゆるされて、別に職業に手だしせんともせざりき。五年の後母みまかりぬ。彼はなぐさめの光を失ひぬ。意氣兄と投ぜず。彼は財布を懐にして、シカゴに何か業を見付けんと旅立ちたり。彼は煙草問屋に身を寄せたるが、其結果、彼は職業に成効せずして、却つて大喫烟家となりぬ。彼は他の喫烟家に交はり、飲酒家に接し、賭博し、散財し、遂に一個の懦弱青年となりて、ニユーヨークの兄の家に歸りぬ。兄は事業に成効して、社會に尊敬せられ、信用せられぬ。彼は其貧しき弟を己れの會社に入れて試みたるに、多年身を持ちくづせし弟は、用にたゝず。兄は冷かなる眼光をもて、彼の誇りを射通しぬ。彼は心に慣りて、彼は到底習慣の人間となりつ、自ら甲斐性なき身を賤しみつゝも、習慣より脱すると能はず。遂に兄と喧嘩して、再び涙々の身となりたり。彼は己れの過去に慣り、現在を夢の如く過して未來の成効を希望せず。相手あらば輕快なる談話の仲間となり、煙草あらば絶間なく喫し、談笑すると一個の愉快なる人の如し。而して三十才の壯年を以て、食卓上二個のパンさへ食ふ能はず。病人の如くに牛乳を呑み、夜は床上にうなりて眠ると能はず、叫んで曰く、我は何故に生れしぞ我は何故に生れしぞと。一日余は彼に問ひぬ御身は一生の中、何の業をかなさんとすと。彼答へて曰く、我は天職を失ひぬ、われは幼時より音樂をいたく好みしものをと。余は再び問へり、御身の母は、御身に敎へざりしやと、彼唯だ答へて"God blese her."

七月一日

今朝ひよつと目を醒したら、丈の高い、ローカスト樹の露に沾ふ葉の間を通して、我窓にさしこむ朝日が、キラ〳〵として、あまり奇麗であつたから、とび起きて、手早く着物をきて、野路を獨で歩いて見た。百姓はまだ起きず。靜かなる一眼界、紫雲は見事なる畫線を畫し、どこから來るともない微風は、野葡萄の香を送り、今目を醒したといふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

やうに栗鼠が、古木の洞穴から顔を出して、ひよつとあたりを見て、自分の足音に驚いて、ひつこんでしまつた。自分はアヽ心地がよいと、獨りごちして二哩ほど歩いて、足をもどして歸つて來たが、家の戶はまだしまつて居つて、誰も起きてはをらなかつた。即ち自分の室に上つて、朝飯まで、再びねやうと思つたが、朝日の美景を知らずに、ウカ〳〵とねて居るのも馬鹿げてると考へたから、室の窓をあけはなして、靜にシエレーの詩をよんだ。

七月三日

いくぢなしの男ほど見にくい者は世にない。それだからタスカーと云ふ男ほど、見にくい者は世にない。端書を下さい、マッチを下さい、小刀をかして下さい、狀袋と紙とを下さい、三十才の壯年が、こんなものを、家のおかみさんにねだるのは、實に見にくい。

田舍の貧乏百姓の五郎左衞門の妻が、人に會ふ每に、私は五郎左衞門の妻で御座りますといはずして、牧師の娘で御座りますと自分を紹介す。現在妻となりてをる身が、しかも老いて白髮な嫗が、貧乏とはいへ、百姓とはいへ、其夫の名を尊敬せずして むかし〳〵に死んだ、父の牧師の娘で御座りますといふのは見にくい。彼女はいつもかくいふ、

"I am a minister's daughter."

七月五日

四日は日曜日であつたから、村の若衆が催した獨立祭は、今日五日に行はれた。ガーデナー村の森の中で、夕暮より茶店、アイスクリーム店を設け、松明やら、花火やら、演說やら、村相應に騷いだ。或演說者は、しきりに英國の干涉論をうなり出した。家のおかみさんと共に茶店に入つて見たが、田舍百姓の料理とて、冷肉も何もかも、極口に合はなかつた。バターは暑さにて、ぎんだし油のやうに溶け、コーヒーは黑々として、ふちの厚い、白い大な茶碗に湯氣をたぎらしてをつた。六月十六日のアイスクリーム會に、おかみさんが、自分のためにはりこんでくれたから、今日は自分がはりこんで、二人前五十錢を拂つた。しかし後で、おかみさんは、レモンのアイスクリームを買つて自分にくれた。

七月八日

家の客と、印度に宣教師になつて八月に渡航するスカッダー夫婦と、モハンク山に遊んだ。野百合は、既に咲きみち日柄が好くて、自分に心持がさへ〴〵した。山の麓は、裸麥の白波を打つて、うつくしく、稍登ると、詩人がよく歌ふローラルの花やら、今花ざかりの栗の青葉やら、松やら杉やら、新鮮なる森の香り、ひとしほに覺えた。大盤石の岩上に立つ旅館は、湖水を前にして、瑞西の書景のやうであつた。スカッダー氏が、散らす金があつたら、こゝに居るにと歎息したが、自分もさう思ふた。此旅館は、富有の人の避暑地で、一週に十五弗より三十五弗の宿料を要するなり。

七月十三日

四年前の明日は、自分が米國にと横濱を出發した日だ。

日本全國基督新教派女學校現在表

（獨立と註したるは外國傳道會社の助力を受ることあるも其直轄に屬せざるものを云ふ也）

◎監督教會派

◎立教女學校　東京市京橋區築地新榮町七丁目二十六番地

◎香蘭女學校　東京市麻布區長坂町一番地
◎靜修女學校　東京市麴町區五番町十四番地
◎瀧の川學園　東京北豐島郡瀧の川村　（獨立）
◎女子傳道學校　大坂市西區川口四十七番
◎關西女子高等學院　大坂市東區道修町八百屋町角
◎普留女學校　大坂市西區川口四十二番
◎看護婦學校　神戸市中山手通四丁目
◎松蔭女學校　神戸市中山手通六丁目三番地
◎平安女學院　京都市上京區下立賣通
◎松本女學校　信州松本蟻が崎
◎研操練技女黌　和歌山縣伊都郡橋本町
◎女學校　長崎市東山手三番地
◎靖和女學校　北海道函館區元町五十五番地
◎釧路女學校　北海道釧路國釧路港米町
◎小樽女學校　北海道小樽區　（獨立）

計十六校

◎浸禮教會派

◎駿臺英和女學校　東京市神田區駿河臺袋町
◎捜眞女學校　横濱市山手三十四番
◎浸禮女學校　仙臺市中嶋町二十七番地
◎日の本女學校　播州姫路町

計四校

◎日本基督教會派

◎女子學院　東京市麴町區二番町三十二番地

◎頌栄女學校　東京市芝區白金猿町（獨立）
◎聖書學館　東京市芝區二本榎西町二番地
◎フェリス和英女學校　横濱市山手百七十八番
◎共立英和女學校　横濱市山手二百十二番
◎浪花女學校　大阪府西成郡清堀村
◎ウィルミナ女學校大阪市西區川口二十二番
◎宮城女學校　仙臺市東三番町
◎スミス女學校　北海道札幌區
◎金城女學校　名古屋市
◎梅香崎女學校　長崎市大浦東山手十四番地
◎金澤英和女學校　金澤市上柿木畠町十一番地
◎高知英和女學校　高知市本町
◎豊浦女學校　山口縣長府
◎光城女學校　山口縣野田町

計十五校

◎長老敎會派（日本基督教會に合同せざるもの）

◎淡水女學校　臺灣淡水
◎臺南女學校　臺灣臺南

計二校

◎組合敎會派

◎同志社女學校　京都市上京區今出川通（獨立）
◎梅花女學校　大阪市西區靱上通二丁目（同）
◎神戸女學院　神戸市山本通
◎横濱英和女學校

計一校

◎傳道女學校　神戸市中山手通五丁目
◎鳥取英和女學校　鳥取市縣廳裏（獨立）
◎山陽女學校　岡山市門田屋敷（仝）
◎順正女學校　岡山縣高梁町西片町（仝）
◎松山女學校　松山市二番町（仝）
◎共愛女學校　前橋市（仝）
◎熊本英和女學校　熊本市（仝）

計十校

◎監督メソヂスト敎會派

◎青山女學院　東京豐多摩郡澁谷村元青山南町七丁目一番地
◎聖經女學校　横濱市山手
◎活水女學校　長崎市東山手
◎福岡英和女學校　福岡市
◎清流女學校　名古屋市東片端町
◎弘前女學校　弘前市大工町
◎遺愛女學校　函館區元町
◎鹿兒島女學校　鹿兒島市

計八校

◎南メソヂスト敎會派

◎婦人修藝學校　神戸市下山手通六丁目百六番屋敷
◎廣島英和女學校　廣島市上流川町二番地

計二校

◎福音メソヂスト敎會派

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

計　二　校

◎福音メソヂスト敎會派

◎横濱英和女學校　横濱市山手二百四十四番地

計　一　校

◎日本メソヂスト敎會派

◎東洋英和女學校　東京市麻布區鳥居坂

◎靜岡女學校　靜岡市

◎山梨英和女學校　甲府市百石町

計　三　校

◎フレンド敎會派

◎普連土女學校　東京市芝區三田功運町

計　一　校

◎宇宙神敎派

◎宇宙女塾　東京市麴町區飯田町六丁目二十四番地

◎東海女學校　靜岡市

計　二　校

◎無所屬

◎明治女學校　東京北豐島郡巣鴨村庚申塚　（獨立）

◎獨立女學校　東京新宿元角筈村　（同　）

計　二　校

△總計　六十三　校

以上六十六校の外或は一二の脱漏せるものもあらんか。此等は皆高等女學校程度以上のものなり。全國内官公立私立の高等女學校は今二十餘校を有せるに過ぎざるに、基督敎會の旗下にある女學校は實に此多數を見る。此等は新敎に屬するもののみなるが、なほ舊敎、希臘敎に屬するもの數校あり、我國女學の、同宗敎徒に負ふところ、豈に大ならずや。而して此等の大部分は、宣敎師の手に屬して、外貨を以て維持せらるゝものにして、全然日本の有志敎家の獻巳の餘に成るもの亦十三ありて、（獨立）と註したるものは、皆これなり。此種のものは、組合敎會派に最も多きを見る。今以上の諸校を、府縣別により統計するに左表の如し。

	監督	浸禮	日本基督	長老	組合	監督メソ	福音メソ	日本メソ	南メソ	フレンド	宇宙	無所屬	合計
東京	四	一	三	|	|	一	|	一	|	一	一	二	二十四
神奈川	|	一	二	|	|	一	一	|	|	|	|	|	五
群馬	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一
山梨	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	一
長野	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一
宮城	|	一	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	二
青森	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	一
靜岡	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	一	|	二
愛知	|	|	一	|	|	一	|	|	|	|	|	|	二
京都	一	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	二
大阪	三	|	二	|	一	|	|	|	|	|	|	|	六
兵庫	二	一	|	|	二	|	|	|	一	|	|	|	六
石川	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一
和歌山	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一
鳥取	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一
岡山	|	|	|	|	二	|	|	|	|	|	|	|	二
廣島	|	|	|	|	|	|	|	|	一	|	|	|	一
山口	|	|	二	|	|	|	|	|	|	|	|	|	二
高知	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	|	|	一
愛媛	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一
長崎	一	|	一	|	|	一	|	|	|	|	|	|	三
福岡	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	一
熊本	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	|	一
鹿兒島	|	|	|	|	|	一	|	|	|	|	|	|	一
北海道	三	|	一	|	|	一	|	|	|	|	|	|	五
臺灣	|	|	|	二	|	|	|	|	|	|	|	|	二
合計	十六	四	十五	二	十	八	一	三	二	一	二	二	六十六

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

佛教主義の婦人會

佛教主義を以て成れる各種婦人會は、全國諸處に散在して、其數頗る多しと雖も、世に知られざるもの多くして、其統計を盡くすこと能はず。本誌も曩に其數種を紹介せしが、今、「反省の鏡」が調査したる二十有五の會合を擧げて、名稱在地其他を示すこと別表の如し。

會名	位置	創立時	創立者	會長	現在會員數	事故
博多婦人教會	博多萬行寺	明治十年	七里恒順師	○	千餘名	二十九年七月調
萩町婦人會	本願寺別院内	明治二十五年	小野島行薫氏	毛利公爵夫人	○	二十九年調査
近江婦人慈善會	○	明治二年十一月	○	園田警視摠監夫人	○	同
中島村小婦教會	播磨印南郡中島村	明治十九年	佃離見氏	○	○	同
埼玉縣婦人會	同縣熊谷町	明治廿九年四月	草香、島田兩氏	○	○	同
大石慈善會	兵庫縣下大石村善立寺	明治廿七年十一月	同地有志	○	百五十名	同
西宮婦人會	攝津西宮	明治二十三年	同地有志	櫻井子爵夫人	○	廿八年知恩會ト改ム
防長婦人相愛會	周防徳山女學校内	明治廿一年一月	赤松照幢氏	○	○	會誌ヲ發行ス
伊保村愛樂會	播磨印南郡伊保村	○	同地寺院有志	○	○	○
東京眞宗婦人會	築地別院内	○	○	○	一千名	○
佛教花園婦人會	京都花園村	明治二十四年	○	○	○	○
教の友婦人會	徳山徳應寺内	明治二十四年	赤松照幢氏	○	○	○
桑名婦人會	勢州桑名町	明治九年十一月	同地星野友三郎氏等	○	○	○
豐前中津婦人教會	同地中津町	明治十七年頃	福田行忍師	○	八百五十名	三十年改革當時調査
福島佛教婦人會	福島市	明治二十八年頃	同地有志	○	三百餘名	三十年五月調
高岡婦人會	越中高岡市	明治二十三年頃	藤枝令道氏	○	五十名	會員は殆んど藝妓を以て成る
聞名寺婦人教會	釧路	明治三十年四月	永福法隨氏	○	○	三十年六月調
明石佛教婦人會	播州明石	明治三十年四月	同寺眞宗岡寺坊守	○	百五十名	同
三河婦人會	三河岡崎町	○	松井、近藤兩氏	○	千三百餘名	同
佛教婦女會	播州市村	○	○	○	○	○
佛教婦人智恩會	神戸	○	○	○	○	○
三條婦人會	越後三條大谷派別院内	明治廿八年九月	福田觀樹氏	○	千三百餘名	○
佛教婦人會	京都	明治三十年七月	京都淨土宗有志	○	募集中	三十年九月調
妙好婦人會	三河福岡町	明治三十年一月	成瀬、加藤兩氏	善光寺尼宮	六百餘名	○
夫人正法會	東京	○	毛利公爵夫人等	戒師雲照律師	○	貴夫人を以て成る

躶躰畫の可否を論ず

問ふ者あり、裸躰畫、善きか惡きかと。余對へて曰く、先づ試みに問はん、畫ぐと善きか、惡きかと。其人沈吟して曰く何んぞ直ちに答ふべけん、善く畫くものは則はち善きなり、惡く畫くものは則はち惡きなり、何んぞ畫くとに善惡あらんやと。余直ちに答へて曰く、余も亦同じく言はん、裸躰畫に善惡なし、其の善き者は即はち善、其惡き者は則はち惡たるのみ、未だ初めより裸躰畫を論じて、直ちに其善惡を定むべからずと。

彼の裸躰畫を擯斥するものは、二樣の先天あるによる、一は婦女子の裸躰を以て不美とするに由る。二は、裸躰畫を見て之を不美とせしに由る。要するに、未だ曾て、裸躰の美を理想もしくは實見せざりしに由るのみ。故に彼が裸躰畫を惡しとするは即はち惡しき裸躰を惡しゝとする耳。單に裸躰畫を惡しゝとするにはあらず。彼は自から其の論據を知らざる耳。

彼の裸躰畫を善しと論ずる者は、二樣の先染あるによる。一は、先輩の理論を可とし、種々の想像を加へて、婦女の裸躰を美となすに由る。二は、裸躰畫として既に賞賛せられつゝある畫像を見て、之を善しとするに由る。夫れ、想像を加へて立論し、未だ畫かれざるものに就いて、之を美ならんと言ふとも甲斐なし。既に自から見て美なりと認ためたる裸躰畫を見めし、以て反對者の批評を乞ふに如かず。我は之を美なりとし、彼は之を美ならずと言はんには、之れ趣味の異なれる也。趣味の異なれるに際して、議論能く之を決定するとを得べき乎。又たとひ之を評して、之を不可なりとするものあるも、彼は畫像に望んで其の不可なりとする點を指ざして不可なりとするのみ、之れ一種の鑑識に屬す。鑑識の相違は之を論ずべからず、但だ之を味はふべきのみ。左らば、則はち裸躰畫の善惡を論すべき標準何處にありや。

夫れ、たとひ、曲線の配合をもて美なりとするも、其の配合にして不可なりせば、遂に美ならじ。何んぞ、曲線の配合夫

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

自身をして常に美なりと言ふとを得べけんや。

抑も、美人の裸躰畫は唯だ、裸躰畫中の一なり。然るに特に美人の像を以て佳となすは、是れ實に最上優美の權化なれば也。然りと雖ども、凡そ最上なる美人裸躰畫は、其の裸躰なると、即はち、婦人平生公けに見さゝるの愧恥を破りて特更に裸躰を露はしつゝありとの意識を、看者に惹き起さしむべき餘間ある可らず。之あるは即はち裸躰畫の最上理想とする所にあらざるべし。蓋し、看者をして、一種の惡感を懷かしむる裸躰畫は、其の高尙なるものにあらず。而も、此の裸躰畫の高尙ならざるが故に、惣て他のものの皆な同一なるとを推定すべき謂れある可らず。

但だ夫れ、看者の眼識も亦た敎養せざる可らず。男女淸潔の交際は今の中以上の人の決して奇しまざる所なりと雖ども、未だ此等の新風俗に慣れざる田舍の人は、直ちに評して奇怪の風聞を起すとあるべし、是れ其眼識の未だ慣れざれば也。美人の裸躰畫を看るものも亦た斯の如し。たとひ其畫にして神秀麗美なりとも、万衆皆な見て直ちに之を高しとするとはある可らず。況んや、本邦庶人の如く、其眼未だ久しく之に慣れざるものに於てをや。

左らば、我國に於て、裸躰畫を見めさんとする畫家は、先づ暫らく看者が裸躰像に慣るゝの習俗を養ひ、以て徐ろに美人の裸躰畫を見めすの順序に就くを賢しとす。愛すべき赤兒、もしくは猛快なる力士の裸躰畫等は、此等の順序に利用すべき恰好の畫題にはあらずや。

故に、吾人は、裸躰畫其ものの善惡を評するものにあらず。然れども、今の我國に示して、直ちに其美を感ぜしむるとを問べきほどの美人裸躰畫を畫くは、殆ど至難の事業なりと信ず。未だ、其善きものを得ずして直ちに裸躰畫よしと言はんや。只だ其の惡きものを見て、直ちに裸躰畫惣べて惡しと言はんや。絕躰的に裸躰畫を是非する今の議論の如きは、畢竟一種の空論なるのみ。

靑蛾皓齒在樓船　橫笛短簫悲遠天　春風自信牙檣動
遲日徐看錦纜牽　魚吹細浪搖歌扇　燕蹴飛花落舞筵
不有小舟能蕩槳　百壺那送酒如泉　杜　氏

詩的裸體畫賛論の一節

（モデルは破倫に非す）

青柳有美

編者曰く、有美君裸體畫賛論十二頁の長文たり。今ま、茲に其一節を掲ぐ。

排裸體畫論の、其聲喧しきものあるは、一に新著月刊等が斯書の寫眞版を附錄にして、賣りひろめを計らんと企つたるに起因すと雖ども、又モデルを美術學校の教室にいれたるにも基す。されど裸體の描法に於て、モデルは其避くべからざるものなり。而して、世しきりに其非倫を鳴らす。報知記者茲に於てか之れが俑を作りし畫家黑田清輝氏に就て、問ふところありしに、答て左の如くいへり。

學校教場といへば、如何にも神聖に、道德と相伴ふが如き感あれども、美術學校は、師範學校と自ら撰を異にし、言はゞ、畫工の工場なり。工場にてモデルを使用するは、さしたる不都合なかるべし。人體の肉色及線の配合等は、到底死物につきて研究すべからざるなり。モデルに就きて研究すればこそ、斯道の進歩はあるなれ。

苟も、身美術家を以て任じ、しかもかゝる言をなす我れ其是を知るに苦しむ。今日囂々たる裸體畫攻擊は、素より風俗の美術思想乏しきに坐すと雖ども、藝術の士、自ら信ずることの斯の如く淺きものあるの致すところ、また其最大原因なり。

そのモデルを以て破倫のものゝ如く心得、之を教室に入るゝに其神聖を汚すが如き句調ある、嗚呼何たることぞや。かゝる腰拔けの畫家多きが故に、聖なる裸體畫の名は辱められ、論難排斥の豆殼は燃ゆるなり。我れ實に我が美神のため、否な寧ろ彼等藝術家のために、深くこのことあるを憂ひ、亦泣かざるを得ず。モデルのこと若し果して不德なるか、之を厠に於てなすも、不可なり。何ぞたゞ教室とのみ言はんや、工場とのみ言はんや。黑田氏、不道德は之を教場に行ふべからず、工場に於て不可なしといふ乎。モデルを汚れたるものゝ如くなして、之に牽强附會の說を加へ、あまつさへ、美術學校の教室を以て神聖ならずとなすに至つては、我れ之を畫家として教授たる先輩黑田氏の口に聞くを恥づ。是れ實に美術を辱しめ、美神の面に泥ぬるものに非ずして何ぞ。教授一派の大信念なく、意氣地なく、美の名によりて立つと弱き誠に是に至りて極まれりといふべきなり矣。何ぞ百尺竿頭一歩をすゝめて、教場は聖なり、然れどもモデルも亦聖なり非倫に非ず、之を容るゝ何の恐るゝことかあると、斷然揚言するの勇あらざる。もし不德のところ少しにても、そのうちに籠ら

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

は、假令工場なりと雖ども、斷じて之れを廢止せざるべからず。我れ乞ふ美神の名に於て、誠にその破倫に非る所因を說き、胸惡き道德屋の味噌臭き議論を打破せん。

今茲に二九或は二八の純潔なる處女を衆目稠座の前にひき來りて、その衣を剝ぎ、赤裸々にして之を飾り、臨畫の參考となすことの、婦人の純潔を穢し、その淑德を破るものなりとの說は、素より正當の所論にして、我れ亦その然るを認識す。モデルや實に婦人の淑德を破り其純潔を汚すものあるべし。されど、このことあるの故を以て、直に非倫なり破德なりといふに至りては未だし。否な之を神聖なる美術の爲にすとせば却てこれ一の道德にして乃ち倫理に適ふものなり。人の死躰に刀を加ふるは是れ忌むべきことなり。されど『醫術』の名によりてなす、所謂解剖なるものは、却て讃むべきものと稱せらる。人を殺し其血を流すは天下の大罪にして、これにまさる罪業亦あることなし。戰爭は殺人なり。而して『正義』の名に於て之をなさば、なほ責むべきことなく、寧ろなすべきものなりと稱せる。姦淫罪は、これ婦人の淑德を破るの罪なり、されど何れの國も其法律に於て、之を罰すること重からず。然るに殺人罪は頗る重くして、多くは主刑乃ち死刑を以て罰せらる。モーセの十誡また殺人をさきにして、『殺すこと勿れ、姦淫することと勿れ』といふ、斯る殺人もし『正義』の名に於て行ふべくんば、婦人の淑德を破るのこと、豈に『美術』と『美』との爲にして行ふ能はざらんや。之をなさゞる是れ却て不德なり。之をなすこれ道德なり、順倫なり、賞すべきことなり。嗚呼爾美術家よ、謹嚴莊重、『美』の名に於て　女性の淑德の破らるゝを忍べ。爾女人女房の儕輩よ、『美』の名に於て其純潔の汚さるゝは許せ。之に當れる人のためには素より深く悲むべきことなれど、一旦戰爭あらば、之に殉する兵士のあるは、亦免れ難し。その如く茲に美術の犧牲となりて、淑德を汚さゞるべからざる星運にあたり、衆目にその皮膚を示すが如き、實に當局婦女子のため、痛心氣の毒に堪へざるところなりと雖ども、又必用止むべからざるものにして、恰も名譽ある戰死者の如く、無上の光榮なりと知り、『美』のために盡すところ厚きに安んずべし。

故に以爲らく、モデルは破倫に非ず、却て道德に適ふものなりと。然らば、何ぞ美術學校の敎室に入るゝに於て恥ぢ、ま

た恐れ、詭辯を弄して之を擁護するの要あらんや。殊にをかしきは、モデルやかまし屋の一流が、多くは葦の動くにも腹いらだて、直に露國撃つべし、獨逸戰ふべしといふ、主戰論者なることなり。彼等は『正義』の名に於て、殺人の大罪を犯すを肯じて、しかも『美術』の名に於て、女性の愧耻を破るべからずとなす乎。愚も亦甚しからずや。

諸君莫笑生涯乏、貧不苦人人苦貧

教育

當今の學風、空疎淺薄に非ずや

古人より經世家の國家を料理するに　學者先生を重用したることと太はだ稀なり。是れ何の故ぞ。

人躰を解剖し、生理を講究せる學士をして論ぜしめよ。其の百脉千孔の組織活動を知れるは極めて緻密なるに拘はらず、其のよく三才の童見をすら健全に養育すること能はざるは何の故ぞ。理を知れるもの必らずしも善く行ふものにあらざれば也。

理はスヂ也、道なり、義なり、之を千古に通じて何人も皆な其の當然なることを承知し得べきが故に、直ちに或る日、或る事の有限區域に施にすこと能はざる也。千古に通ずるものと、一日に限られたるものと、其の軌を一にすることなし、即ち是れ千古の理を擧げて、直ちに一日の用に施こすこと能はざるの所以なり。單に理を知ると云ふを以て實地に用ふること能はざるの主意、こゝに存す。

彼の歩むものは、道を識らず。顧りみて經過し來りたる後邊を一望し、則はち平安道の直路を認む。理に於ける亦た之に同じ、顧りみて一道の明白なるものを認め得べきが故に、歩々の足下にも亦た斯の如きものありと思惟すること莫れ。一歩は、一行なり。確然直立し、固く大地を踏み、倒れず躓かざる進路を執り得るを道を行くの實際とす。而して、后に顧りみて初めて長遠の大道を認む。

彼の學者先生の多數は、未だ自から歩まずして單に道路を講

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

究したるもの也。其方向を知り、其の進路を知り、其の歴史を知り、其經濟を知る。而も未だ曾て實地に踏まず、未だ曾て實地に關係せず。其の知見する所は只だ空理に於てせしのみ。此に於てか、其の道普請の伎倆は土方にすら如かず、其行くとの速かなるは車引にも及ばず、其の健脚は固より旅人に比す可らず、其案内は遂に茶店の老婆に及ふとなし。果して然らば、此の學者先生を實地に用ふるときの便益は如何ん。他なし、人あり、書齋に居て坐ながら、其の智識を聞き、以て實地の參考に供するの場合に於ての利益これのみ。古來多數の學者先生は、斯の如き主意に於て、かの經世家に利用せられたるに過ぎず。

夫れ、理を見るは易く、勢を見るは難し、勢は即はち俊傑の見る所にして、所云ゆる事物の精神を看破するとなれば也。然るに、書に臨みての成功は、理を見るに止まり、實地に當りての成功は、勢を見ざれば不可なり。實地を成就する豈容易の事ならんや。眞に彼の學者先生に優りたるの人品精能を要するの事業たり。

此を以て、儒生万人を坑にすとも天下亂れず、秦皇一人なかつせば、遂に其國を治服すると能はざりし也。學者あるは、無きに優る、而も之れ無きも國家の生存を危くするとなし。もし一日實際の手腕なくんば、生民は塗炭の苦に沈淪せん。故に曰く、學者は國家の装飾なりと。喩ふるに猶ほ、家の美術品の如きか。之あるときは、趣味を好くし、風雅を增す。而も之なきが故に家屋の倒るゝとあるなし。所云る柱石棟梁たるものは、則はち別に存するとある也。

然りと雖ども、以上の理論をして其の當を得たるものとなすべきか否やを確定するものも亦た理による。理の論決して輕んずべからず。吾輩や、學者先生を一概に擯斥すと誤解すると莫れ、人生日々の營業抑も何事ぞ、實際の事功の價値遂に一笑に附すべきの運にあらずや。惣べての品評を社會の經營より打算し、國家實際の利益の故に其の上下を格定する如きは、遂に淺劣の識見たるを免かれず。吾人豈に此流俗論の黨に伍せんとするものならんや。

事業の經營は、人品の修養に及ばず。一事の成るは、一人の成就するに若かざると勿論なり。但だ夫れ吾人の所云る學者先生に服せざる所のものは、其の空理を談論して、實地に

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

用なきの輕薄を卑みてするにあり。人品の修養の工夫を談論して、遂に其の實地を知らず、人物成就の理論を講究して、遂に其の精神に悟入せざるを是れ陋とす。玆に實際と言ふ時は、人直ちに卑近の事となす。嗚呼、これ學風誤謬の根本にあらずや。實際とは即はち精髓の謂ひ也、假面に對するの眞面目は即はち其の實際なり、形躰に對するの精神は即はち其實際なり。所云る精神的敎育の本義は、學の實際を開展するの主旨なる耳。哲學にも、空理と實際とあり。實際の哲學とは必らずしも之を社會に應用するの謂ひにあらず。即はち哲學の純精たり、根本たり、眞面目たるものを言ふ。他の諸種の有形理學、百科の技藝の學皆な此の空理と實際とあり。即はち其實際を重しとするものは、其の精神を重んずれば也。精神的敎育の眞意豈に他あらんや。

夫れ、學者をもて任ずるものは、身を學に殉ずべし、これ學の實際に觸着せる所以の確證にあらずや。學に任ずと言ひて未だ能く學に樂しまざるものは、學の眞相に到達せざれば也。其の甘泉に飲むことを得ず、即はち餲して他に需むる所以也。これ豈に學の實際に觸れ得たるものならんや。大凡そ斯の如く、其の皮相を撫で、其の空文に安んじ、其の虚影に迷ひて直ちに能く眞相に徹底せざるものは氣力尫弱、精神浮薄、赤誠未だ満たざるの致す所、學を勉め、業を成す、同に此般の輕淺を下々とす。吾人が今の學風に不可とする所のものは、此の非實際の虚僞を悪むにあり。嗚呼よく之を救改せんものは何等の力ぞ。曰く亦空論にあらず、只だ實際の生命即ち是れ也耳。

小學校の基本財産

各小學校基本財産なかる可らず、即はち是れ小學敎育を自由敎育にして、廣く普く施行するの方、寔に之を國家敎育とするの手段なり。

小學校に基本財産を得るの道は、御料局に請ひて其の山林を頂戴するにありとは、久しく吾人の唱道せし所也。今正に其機となれり。有志切りに請願する所あるべし。

情窮造化理　學貫天人際

◎臺灣教育の統計

●經費額

●總督府直轄學校の部

國語學校（本校、城內ニ在リ）	三八、八六三・二二六円
第一附屬學校（八芝林）	一一、五九五・八八五
第二附屬學校（艋舺）	一〇、〇一一・五六〇
第三附屬學校（大龍洞）	一〇、五六六・〇六〇

（備考）第四附屬學校ハ城內本校ノ傍ニアリ、其經費ハ本校ノ中ニ算入シ之チ區別セス但第四附屬學校ハ內地人ノミチ教育スル者トス

●縣、廳、管轄學校の部

臺北國語傳習所（城內）	一〇、〇四一・九七〇円
宜蘭國語傳習所	七、九一三・二六〇
基隆國語傳習所	八、一二六・四三〇
淡水國語傳習所	七、三六七・六六〇
新竹國語傳習所	九、九〇一・〇七〇
苗栗國語傳習所	七、九五〇・六六〇
彰化國語傳習所	七、六五九・六六〇
臺中國語傳習所	一〇、五七六・一七〇
埔里社國語傳習所	六、五五〇・〇六〇
雲林國語傳習所	八、〇六四・三六〇
嘉義國語傳習所	八、三九一・五六〇
臺南國語傳習所	一〇、一七八・〇七〇
鳳山國語傳習所	九、二一四・六六〇
恒春國語傳習所	九、〇一〇・三一〇
臺東國語傳習所	八、八四四・〇六〇
澎湖島國語傳習所	八、〇六六・一一〇

●生徒の數　（內）は內國人

●總督府直轄學校の部

國語學校（本校）師範部	（內）二九人
同　土語學科	（內）三二
同　國語學科	二七
第一附屬學校（八芝林）	一四六
第二附屬學校（艋舺）	一〇九
第三附屬學校（大龍洞）	一〇七
第四附屬學校（城內）	（內）八〇
合計	
內地人	一四一
土人	三八九

●縣、廳、所管官立學校の部

臺北國語傳習所	七三人
淡水國語傳習所	三八
基隆國語傳習所	七三
新竹國語傳習所	一五三
宜蘭國語傳習所	七五
臺中國語傳習所	一三八
彰化國語傳習所	七二
苗栗國語傳習所	一二七
雲林國語傳習所	七九
臺南國語傳習所	九〇
嘉義國語傳習所	八六
鳳山國語傳習所	四六
恒春國語傳習所	六七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

澎湖島國語傳習所	三六
以上通計	一、五八一
埔里社國語傳習所	未詳
臺東國語傳習所	未詳

但新設ニテ現今生徒募集中ニ係ル

（備考）外ニ內地人ノ設立ニ係ル私立學校生徒六百六十三人（內地人二百十七人、土人四百四十六人）土人ノ設立ニ係ル書房生徒一万八千八十五人（悉皆土人）外國人ノ設立ニ係ル私立學校百六十六人（悉皆土人）あり

◎小學校員に就いて

文部省第二十三年報によるに、明治二十九年末現在、全國官公私立小學校員數は左の如し。

		男人	女人	合計人
本科正教員	尋常科	三〇、一八五	一、五三三	三一、七一八
	高等科	八、七〇七	六六六	九、三七三
	合計	三八、八九二	二、一九九	四一、〇九一
本科准教員	尋常科	一四、七四〇	七〇四	一五、四四四
	高等科	七八三	七六	八五九
	合計	一五、五二三	七八〇	一六、三〇三
本科雇教員	尋常科	一二、一〇二	六七五	一二、七七七
	高等科	一、〇二五	二一二	一、二三七
	合計	一三、一二七	八八七	一四、〇一四
●本科各種教員合計		六七、五四二	三、八六六	七一、四〇八
		男人	女人	合計人
專科正教員	尋常科	一一六	一一四	二三〇
	高等科	二七九	二六二	五四一
	合計	三九五	三七一	七七一
專科准教員	尋常科	四三	七一三	七五六
	高等科	一〇一	五五七	六五八
	合計	一四四	一、二七〇	一、四一四
專科雇教員	尋常科	五七	一、四七九	一、五三六
	高等科	一四七 內外國人一	八一七 內外國人一	九六四 內外國人二
	合計	二〇四 內外國人一	二、二九六 內外國人一	二、五〇〇 內外國人二
●專科各種教員合計		七四三 內外國人一	三、九四二 內外國人一	四、六九五 內外國人二
◎本科專科各種教員合計		六八、二八五 內外國人一	七、八〇八 內外國人一	七六、〇九三 內外國人二

之によりて見れば全國官公私立小學教員は七万六千九十三人內外國人二人あるなり。外國人を雇用せるは神奈川縣に限れり。而して之に對する生徒數は三百八十七万七千九百八十一人（廿九年末現在）なるを以て、教員一人に就き生徒約五十一人を擔任するなり。而して學齡兒童は、七百十八万七千〇五十九人（廿九年末現在）なるを以て見れば、教員一人に付き學齡兒九十四人强に當れり。

◎哲學者

三宅雄次郎氏、哲學會に於て、哲學者とは何ぞやを講ず。氏は古代の哲學者は、後世の所謂宗教家の地歩を占め、人々人生に關し疑義百出して心の安んぜざるあれば、即はち往いて彼に問ふが順序となり、少くも大悟徹底せるもの現に彼處にあれば我等徒らに懷疑を事とするを要せずといふに歸し、是に於て彼隱士陰然として重を社會に爲す點ありしなるべしといひ、而して曰く

スコラスチックの勢力を失へると共に、哲學者は人に信仰を與ふるの職分を失ひしが如しと雖も、事實必ずしも然らず。デカルトの哲學は疑一切を以て始まりしも、漸くにして重きを唯一神に置けり。世間は彼が疑惑の側を取らずして、唯一神の議論に聽けり………若しデカルトにして疑一切を以て終始するの懷疑論者なりけむには、彼が如き勢力を得ざりしならん。………カントも亦然り、道德家宗教家の彼に重を置く所以のものは稍々學者と異り、カントの思想にして、若し純粹理性批判のみに止まらしめば、若くは人のカントを知る唯だ是

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のみに止まりしならば、或は失望せるもの夥多なりしならむ。哲學史に於けるカントの價値は或は純粹理性批判に在りとせんも、世間に於けるカントの勢力は之が爲めならず、實に彼が嚴格なる道德意見に在り、實踐理性批判に在り。又其の生涯の行爲克く其道德原理と相副ふを努めしにあり。その純粹と實踐との再批判に於て突衝矛盾の有無を論究するが如きは、これ哲學者仲間の事にして其以外に在ては何等の意義をも有せざるなり。ヘーゲルの如きも亦然り、彼は法律美術等、社會の問題に關して新案を下し、世人問の疑に答へ之に安心を與へしが爲、哲學の原理は大に攻擊せられ、殆ど粉碎したる觀ありと雖も、純粹哲學以外の學者を風動すること頗る大にして、法學者ラツソンは之を以て絕大の哲人とし、信仰の動搖せんとする宗教家の益を得たること鮮少ならざりき。ヘーゲル迄は、哲學は學問の第一位を占め、諸學之に朝宗するの形ありしが、其後絕えず哲學者の輩出せしに拘らず、漸く輕んぜられ來るは何ぞ、哲學の必ずしも進步せざるを以てにあらず。哲學者が自から社會に於ける地位を狹めたるを以てなるべし。

と論じて、今の哲學者は概して考證的歷史批評的に流れ、過去の學說につきては毫厘の差を分つを得るも、人生問題の善惡邪正を判別するに當りても、古人のあらゆる學說を比較批評するのみにして、之を決する能はず。其適從する所を知らず。實に死哲學を研究するに忙はしきのみと慨して、今の哲學者は、要するにヘーゲル以前の地位に歸り、身を以て人世問題社會問題の解釋に當るべしと說く。此論の如きは、實に近時稀に聽くの卓論にして而も當時雪嶺氏に於てのみ始めて聽くを得べきものなりといふべし。

◎倫理教育の價値

本田多庸氏曰く

倫理科の教育に必要なるは贅言を待たずと雖、今日の教育海に於て此科目程に薄遇せらるゝものはあらず。試みに中學の課程表を視よ。倫理は一週間僅かに一時間なるに、多くの學校にては皆厄介物の如く取扱はるゝの觀あり。甚しきに至りては全く此科目を廢せんと欲するに至る。而して其言ふ所を聞けば倫理道德は實踐を重しとす、學校教場に口より耳に傳ふるも効能甚だ尠し、專教師の躬行實踐を以て感化するの優れるに如かずと。是れ實に立派なる說明の如しといへども、蓋し遁辭に過ぎざるなり。試みに一思を費せよ、教場にて適當なる講述をなし多少感化の助けをなすこと能はざる教師が、如何にして不言の間によく、青年の精神に勢力を及ぼして、洽く教化をなすことを得べけんや。若し亦其德風旣に幾分の教化を與ふるに足れるものとせよ、此人親しく口を開きて其精神を傾注せば其感化の多きことは勿論なりとす。通例中學程度の諸學校にては、比較的重ぜられざる漢學科の教師をして倫理を擔當せしむ、是れぞ無効の嘆を來す所以の大なるものなるべし。想ふに今日の中學校にては校長若くは教頭をして之に當らしむること適當なるべし。若し然らずして遂に全く之を廢止するに至らば、何の理由にもせよ之を廢止せりとの一聲が、非常に惡しき勢力を青年の腦裏に及ぼし、彌以て倫理道德に重きを置かざるに至るべし。愼まざるべけんや。

又坪內逍遙氏は曰く、

今の人、屢々德育を口にすれども、彼等の所謂德育は智育的德育なり、德性を涵養するにあらずして、多くは徒らに倫理智識を注入す、故に今の小兒等早くより忠孝仁義等の名目に飽厭して、却りて些も其の眞味を知らざるなり。其の智能は小學より中學と彌々暢びて其の眞情の發達せざる、驚くべし。是れ其の學校に學ぶ所も冷かなる智識、其の父母より得る所も、同じく冷かなる智識たるに止まるに因るにあらずや。

二氏の見る如斯、倫理教育は天下具眼者の共に憂る處なり。今の所謂倫理科教育の價値、何文錢ぞ。

◎海外教育界

◎米國ケンタッキー州の小學校兒童は軍艦ケンタッキー號に一書籍館設立の爲め、一人一ペンニーづゝを寄附することとなれり。

◎ロシヤ大學の印度語　ロシヤ諸大學にては、各印度語學の一講堂を設くることとなれり。其必要は官吏の印度語を使用し得るに至らんが爲めにして、これが爲めに多數の留學生を印度に派遣し、成學の後更に試驗の成績によりて講坐を與ふるものゝよし。

隨　感

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

随　感

孔　夫　子

大凡そ偉大の人格を想はんとするものは、少なくとも先づ自己の識字を偉大にせんことを力めざる可らず。渺たる一葉に托して、舷の水を掬し、もつて洪遠茫渺の大洋を測らんとする時は、大率ね當らず。試みに見よ、近代多少の偉人に接するの際、其の片々たる隻語、もしくは臨機當座の救世の所行を耳目して、之を以て其の人の全斑を校評することを得べき乎。孔夫子、釋尊、又は救主耶蘇の如き人々を千古の下に想及せんと欲するものにして、何奈んぞ單に片々たる淺薄の記錄にのみ之れ依らんとするや。其の當を得ざること勿論なり、須からく念ずべし、偉大の靈精は万古滅せず、一種不可測の感應をもて、千代に徹することを。其の不可言、不可釋の徹明をもて、妙に万世の人の心に照應する所以のもの、即はち其の偉大なる證標なり。道もと無名、器にあらずして朴なり、言は

ずして、徹り、行はずして而して大功あり。かの聖と云ひ大賢と云ふところの人の如きは、即わち、之に終始して遠く末代の人心に不可識の感化を施すもの乎。孔夫子曰く、一以て之を貫く、忠恕これ也と。即はち、釋尊の慈悲、救主耶蘇の大愛と共に似たり。皆是れ一大事因緣の爲めに出現し、衆生を視て吾子の如くするの故に、奔走して休むことなし。何んぞ可云ゆる「事業家」の名の類をもて之を目すべけんや。但だ夫れ孔夫子、戰國の時に生れ、慘乎として疾苦を救ふに急なり、終年營役、四方に流行して、席一日も暖なるを得ず。こゝをもて、尤とも政治的事功にのみ切なりしかの觀あり。後人單り若く思ふのみにあらず、徒弟の追隨するもの固より皆な此の感ありしなるべし。敎的意識の幽高且つ爛熳たる者、古來救主耶蘇の如きは稀なり、而も其の徒弟は、耶蘇を以て當代の社會改革に意ありとせしなり。之を况んや、孔夫子の時、孔夫子の人に對する、支那人の意見に於てをや。徒弟の論語を編するに當りて、就中此の偏見多きが如しと雖ども而も尙ほ孔夫子偉靈崇高の大人格は、洪野に雲雀の天より舞ひ下るが如く、原頭の模糊たる烟雨、大空に上り接するが

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

如く、標渺として而も自然に、夫子が超脱卓落せる靈精を顯現す。正に是れ百代の下にありて、百代の末に迄で感化を及ぼすべき古への偉人を想ふに際する、評眼を中集す可き燒點にはあらずや。凡そ高きものは必らず天を磨し、深きものは必らず靈泉に潜む。苟くも、万古の偉人を念ふに當りては、人の性格の最とも幽邃、尤とも高遠、最とも靈妙なる所より着眼せずんばある可らず。之れ、聖賢に對するの禮、又、當然近接することを得べきの道なり。古しへより、僧侶、此の覺悟をもて、孔夫子に對し、倘且、日常々識の事のみ記載したらんと見ゆる論語に對して、世人通例に看破し得ざる深遠の宗教觀を看破す。正に是れ彼等が宗教的同情の優渥なることを證せずや。然るに惜しい哉、近日基督教界に緣故ありと知られたる二論客が、隆んに、孔夫子を論ずるを見るに、未だ毫も此般の用意あらず。有るも僅かに教的學論に拘泥して、直ちに宗教感の蘊底を探らず。孔夫子を見做すと、或ひは、單に一個の政治家、或ひは單にユダヤ的罪惡を感ずることを得ざりしの人とす。孔夫子の之が爲に增減せざるは言を待たず、但だ論者自己の修養の足らざるを示して、少こしく遺憾にあらずや。孔子の尤とも驚歎せしは、守靜守朴の老聃。孔子の尤とも愛重せしは、守默守愚の顏回。其の或ひは、鬼神を敬して之に遠ざかり、其の或ひは、流に臨みて喟然として歎ぜし時。或ひは、夢み、或ひは祈り、或ひは彼の耶蘇が徒弟に對して、憫然として、之れ汝等に隱されたりと言ひけん時の如く、生を知らざれば、安くんぞ死を知らんやと言ひ聽かせし時の如き、優に千古の宗教感あるものを打擊して、密かに同情同感の涙禁ずること能はざらしむる者あるにあらずや。人もし、泰山に望み、崇高として氣を清まし、軒に凭つて蒼煙の横はるに泣き、志を千古に遡ぼせて、敬しんで意會默識せんとすることを爲さば、孔夫子の人の如き、豈に輕淺浮薄に一掃の論評に寄すべきものならんや。天下何をか悔ゆ、大人に對して浮薄なりしと是れ歟。天下何をか恥づ、端莊に接して無禮なりしと是れ歟。基督教徒、その罪惡として恐懼する所の最底の意識は、聖なるものを汚がせしとの悔悟に非ずや。この情以て擴ひろむべし、此の心以て先人に及ぼすべし。好學修道の士の胸底は、斷じて浮薄の論評を容るることを許可すべからざる也。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

豐太閤

黒田長成侯、豐太閤を論ずるの態度太はだ佳なり。吾人折々其の片言の新聞紙に記載せらるるを見て、極めて高しとせしが、其の稍やまとまりしものとも見ゆべき一長論話の筆記、近頃は「太陽」紙上に出て、初めて通讀せり。豐公を見ると斯の如くして、則はち首肯すべし。其の家康との關係を言ふもの亦斯の如くして、初めて可なり。勝海舟先生、讀野史有感の長詩、同時、「舊幕府」に出つ。中に、豐公を詠じて、

睨睥寰宇膽如斗　小心翼々奉天職

と言ふ。其の小心翼々奉天職の一句、豈に尋常論客の能く言ふ所ならんや。古しへより、史家、豐公を論じて、只だ其の外形を叙す。外形の卓落雄拔なるもの、決して敬愼寅畏の情と離るるにあらねど、壯快を希ふ血氣の史家、大抵、山師氣象のみをもて此の英雄に配す。豈に豐公の一冷笑にだも値ひせんや。

湖南の弔文

「日本人」の呂泣死す。呂泣は、左の如き詩を詠ぜし人なり、

縱横書生偶儻言　半歲空剩双淚痕
水閣有人簾未揭　多情低佪月黄昏

而して、其友、湖南之が弔文を草す。情至り、感至り、文至る。讀むもの慟哭すべし。蓋し近時尤とも悽慘の辭。吾人多く言ふに堪へず、但だ未見の人の注意を惹く。

中江兆民氏の檄

兆民氏、商界より復活し來り、去年初めて、「國民黨」の名を叫ぶ。鬱抑大不平の氣壓の時、霹靂の聲を聞き、頭腦爲に輕快を覺ゆるの感あり。近頃亦、其の「國民黨の本分」を論じ、檄して天下に告げ、結句一言して曰く、銀椀裏に白雪を盛る、是れ國民黨の本分なりと。嗚呼、兆民氏、一個の文的豫言者、其の先覺の靈筆つねによく人情の機微を穿ち、讀者をして、泣かしめ、肯んぜしめ、安んぜしむ。而も同時に多少のアルコール的氣味に醉はしめて洒然として一笑せしめんとするもの、是れ其の人を爽快にするも人を激動踴躍せしめざる所歟。政界、之によりて鬱散し、之によりて清潔す、之によりて動くとは今まや少しく足らず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

楚些録

逝くものは晝夜を舍てず、日子速に轉じて、故若松賤子君、龍化してより、既に二歳月、維年二月十日、正に其三周忌を迎へ、其十二日は即ち、君を染井の岡に葬りける紀念の日なり。此日、明治女學校々友等、相會して、君を追悼し、墓門に詣して、懷舊の涙を手向け紫菀子、挽歌數首を捧げ、鷗村、祭文を獻じて、無限悽傷の情に哭す。昔は宋玉、屈原を悲んで、招魂楚些の文を作る。吾人の愁腸また玉の如し。哀々の辭、之を名つけて楚些録といひ、之を掲げて、同人共に永く君を傷まんとす。

鷗村識

祭嚴本嘉志子君文

維年二月十二日、同人等爰に染井の岡の奥墓に詣で丶、一枝の花、一炷の香を捧げて、恭しく故嚴本嘉志子の君の靈を祭る。嗚呼哀き哉、君が芳魂既に辭して彼蒼に入り、哀々たる故舊、終に空しき遺骸を奉りて、茲に葬りしより、今日しも早や、正に二歳なる紀念の日に會して、而して悵々の歎なほ新に、遲々の恨未だ滅せず。哀き哉、懷舊痛哭の情、畢竟効なきを悟らんと欲してなほ悟ることを能くせず。嗚呼、無情の火焔、何すれぞ其災を下せし、良君が十年經營の形は、一朝の灰に盡き、劇變の患は、君が百年の齡の、芳蘭猛に摧け、貞玉速かに折るゝの哀しみを招きて、遺留の光薫、永く同人の痛む處となる。嗚呼、曾て滅びたるの黌舍は、既に改め成りて、近く君が墓門を望むと雖も、去りにし君はまた還らず。葬りの日友が手向の花に交りける川柳のさ枝圖らずも、ひとり根ざして、一陽來復の春に逢ふ毎に、青葉若枝に茂み繁りて、君が墓標の蔭を頼めるは、君がかしこき生命をや之に讓りしか。昔は栢樹吊涙に枯れ、今は柳條年々に長じて、君逝くといよゝ遠きを記せんとす。嗚呼、君や此世には、多くの春に負きたりし、壞るべき肉の衣を此に脱ぎて、朽ちざる靈の衣を纒ひ、榮光の桂冠を戴きて、瀏喨たる天上舞樂の坐に、神

[illegible]の如きは、[illegible]するを如何、而も[illegible]を[illegible]みては[illegible]を記し、且や故舊を[illegible]ふて、[illegible]

[illegible]の土、三尺の下、[illegible]

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の幼兒を集へつゝ、或は小公子の物語もやあるらん。嗚呼君、今の如きは、驩樂すると如何、而も亦地を顧みては曾遊を記し、且や故舊を憶ふて、愁懷ありや奈何。之を知るあらんとを冀へども、憾むらくは、天界もと遙遠、消息を絶するとを。君に後れてより、徒に歎の數の多くして、未だ時の久しきを覺ゆる能はずと雖も、此世のうつりかはりを見しとは尠からず。ことには君が遺愛の哀子の、いとも健かに生ひ立ちて、日に月に其愛を増し、其君の事業も亦績の著しきを示す。君が無碍遍在の精靈は、親しく之を照覽して、知ると更に詳に、且や冥護優渥なるべしと雖も、なほ事に觸れ、物に當りては、君若し在らんにはと、いとゞしく忍ばれぬるは、後れし者の常なるを、君が在世の昔の情も亦かくやありけん、思ひ合せて哀れとも見よ。嗚呼哀き哉、君逝いて、識るある識るなき追慕せざるなく、遺風を仰望して、君去る甚だ蚤きを傷んで、蒿里の哀を歌ふ。不肖己れの如きは、君が疇昔の懇情、何の日か、よく之を忘るべけんや。旦夕、小照を拜すれば、朱唇動かず、而も曩時の愛訓、耳朶に徹すと雖も、劣才眷々の服膺を懈る。嗚呼、此至愚なほ棄つるとなくんば、冥々の裡、冀はくは切々の指導を與へよ。哀き哉、此岡、一坏の土、三尺の下、君や或は既に塵に歸したりけんも、なほ君が最後の枕せる此聖き地を蹈めば、汚れたる足の立つ處、これかしこき遺骸の眠れる處なるを思ひて、いたく畏る。嗚呼、此傷ましき紀念の日、爰に詣づれば、舊憶頻りに起りて、新悲ますく加はり、語、情を盡さず、哀み窮期なし。嗚呼、天上知るあり、同人追思の情を酌み、哀悼の念を察し、幽明杳に隔つと雖も、靈魂髣髴として、邇く來りて、尙はくは饗けよ。

櫻井鷗村

寄雪懷舊

湯谷紫苑

是は巖本嘉志子刀自の三回忌を明治女學校にていとなみし折よめる歌どもなり

さらぬだに悲しきものを白雪の
　いかにしのべとまたも降るらむ

ふりしきる雪をながめてみそらより
君もむかしを忍びますらむ

君がすむみそらのさまを語りてよ
こゝろありげにふれるしら雪

君が遺愛兒三人ともに紀念のためにとて
うつされたる寫眞を見て

ねびまさる君がかたみのかなし子を
此世ながらに見すよしもがな

同じとき君がおくつきにまうでゝ

降る雪に埋もれながらにほふかな
きみがみはかの水仙の花

ちりをだにまじへで降れる白雪は
君が心のすがたなりけり

青柳の心もけさやゆらぐらん
かぜこそはるのはじめなりけれ

景樹

[illegible]なるお[illegible]きの[illegible]なるを見ては、男女みな共に甚だ[illegible]たる
ものありといふ。我國の俗謡は、由然、婦女の[illegible]

婦女の凌辱

曲浦子

戰勝國民が敗敵の邦に入るや血に飽きて殘忍なる兵士輩が今迄洩しかねたる獸慾を一時に迸發して、其狂ふがまゝに、可憐なる彼等人民の婦女を執へて、甚しきは獸行を加へ、其他樣々なる亂行をなして之を凌辱するとあるは、古今戰爭の通弊にして、曩の日清戰爭の如きも、堂々たる帝國の兵士にして、この不都合を支那婦女に加へたるなきやを疑ふべきものあり。たゞに戰爭の際に於げるのみならず、凡て强國民なりと誇れる暴人の、貧弱國に對するや、この惡むべき擧動あるとを常とす。

今日臺灣に赴ける無智の本國人等が、往々にして可憐なる土人の婦女をカラカヒ半分に其忌む處の亂行をなして、凌辱を加ふると甚だ多しといふ。臺灣士人の婦女は、頗る耻を知りて、ツヽシミ深く、男子に素面を見らるゝとを厭ひ、また人の裸躰を忌む。其男子はまた注意して、女子の耻とするとを犯さず。然るに戰勝國民なりとして威張れる本國人等が、婦女

[illegible]するの事なしとせず。一般の[illegible]

の覆面を奪ひ、或は醜體を示して快とするは、尋常一般の擧動なるが如きの亂狀あるを見て、男女みな共に甚だ慊焉たるものありといふ。我國の俗漢は、由來、婦女の謹みとすべき處を犯して、意に介せざるものなれば、まして、歸附の人民なりとして輕蔑し、彼等の前に、無暗のカラ威張りをなす輩にして、この暴狀あるは怪しむに足らざれど、もし之を臺灣經營の點より觀れば、甚だ警戒を加ふべきものなり。女子などは、如何樣に取扱ひても差支なしなどと、智慧なきものは思ふべけれども、また當方には冗談の積りにても、婦女、一旦辱しめを受けたりと感ずる時は、女性の常として、慣怨すると劇甚に、而も日久しきに亘るも、決して之を忘れず、且又男子をしてこれが爲めに憤慨せしめ、一家をして、共に怨恨を抱かしむるものなれば、男子に與ふる侮辱の結果よりも劇烈なる結果を來たすべし。同胞姉妹の他國民より凌辱を蒙りたるが爲めに、國民敵愾の念を挑發して、干戈を執るに至りたるの史跡も、稀れならず。これ良將の敵邦に入るや、必ずこの亂行を戒むる所以なり。若し本國人が、臺灣土人の婦女を凌辱すると今日の如くにして、止まずんば、一旦歸附の民も、我に帝道の存し、良治の行はるゝを信ぜず、相率ゐて離反するの事なしとせず。一般の土人等今日はこれが爲に切齒扼腕すること少しとするも、彼地在留の外國宣敎師等の念頭には、必ずや、慷慨禁ぜざるの情あらん。既に過日パークレー夫人が彼地より來京して臺灣、一旦、日本に歸してより、醜業婦公行し、在來の淸俗を亂すとて、慷慨一方ならざりき。彼等宣敎師は、土人の信用頗る厚きものなれば、此事に就きて彼等の及ぼす感化如何は、最も掛念せずんばあらざるなり。

我國渡來の西洋婦人等が、平素厭ふべき事として敎育せられたる行跡をば、日本人の少しも意とせずに己等に對して加ふるが爲めに、甚だしく侮辱せられたりと感じて、これが爲に、日本は野蠻なり、禮義を知らぬ國柄なりなどとの念を抱くとは、先入主となりて、夫れが爲、今日の外交上などにも尠からぬ影響を蒙れるは、識者の知る處なり。

たゞに臺灣に於けるのみならず、日本人の朝鮮に於けるも、また往々にして、此亂行あり、韓人の我を信ずるとの薄き所以のもの、多少之に因緣するとなくんばあらず。

要するに婦女凌辱の事たるや、民を統ぶるに於ては、治績を破り、他邦と通ずるに當りては、親交を欠く。其般鑑歴々として、古今に在り。豈に謹まざるべけんや。殊に今の如きは臺灣の平治を圖り又朝鮮の扶植をなすに當りては、この亂行を警戒すると頗る嚴なるものなくして可ならんや。

芳野山

花影

くづれかゝりし　おくつきに
うらみをつゝむ　苔衣
落花のゆきに　うづもれて
浮世をへだつ　夕かすみ
誰が見しゆめの　ゆくへかと
昔をしのぶ　わがそでに
なみだのごとき　はるさめの
そぼふりそめて　入相の
鐘のひゞきは　身にぞしむ
よしのゝやまの　春のくれ
出で咲き來るなよ風に　たまも一つにとけゆきぬ

天地の戀

同

定めなき世と知りてより　この天地にみちわたる
まことの戀は身にしみぬ　こゝろやさしき小女かも
花さく春やあめつちの　にほふも床し花のおも
八重に一重にもゝさくら　うす紫のあかつきは
露おぶいろのうるはしや　匂にくれし夜な／＼は
遠山まゆも打けぶり　かすめる空に眠るなり
月もたのしく夢みつゝ　風も思をさゝやきて
萌えしばかりの若草に　小川の水もうたひゆく
胸にこてふの影をのせ　ゑひつゝ野邊にうたゝねも
菫すゞ菜のいろと香に　雲雀とともに大空の
夢に浮世のかげもなく　いつしか春のあたゝかき
霞のなかに浮れつゝ　生死のそとに眠りけり
胸に我身もいだかれて　けぶる野川の糸柳の
音せぬほどの春雨に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

絲のかみをくしけづり　濡れつゝにほふ春のおも
撫で吹き來るなよ風に　たまも一つにとけゆきぬ

戀しき春のゆかぬまに　夕日に匂ふ八重さくら
さはらぬほどの風にだに　たへで朧くもほろ〳〵と
散りゆく花をいだきつゝ　我はちりてもゆかまほし

藤の花ちる夕まぐれ　くれゆく春を見おくれば
かすめる空に消えてゆく　やさし姿のこひしさに
我身もともに消えてゆく

◎各地方の手鞠歌

●信濃地方

下の下の大下の下織長兵衞さ申す者、娘一人に聟三人、まだも娶つたよ武士を、おれが死だらこの後で、源内坊主に吊ちせて、糸屋の息子に擔がせて、後は野さなれ山さなれ、行先蓮華の花さなれ。伊豆の〳〵番頭さん、木綿は一反何錢だれ、三百三十三匁、いもちつさまからかちやがらぼへ、一や二や三や四や、よい〳〵吉野の千本櫻雀が三羽さまつて、一羽の雀は嫁入なさる、一羽の雀は聟入なさる、一羽の雀はお鷹に追はれて、アリヤぼん〳〵コリヤぼん〳〵、一寸實をかくした。

●武藏熊谷附近

しんかサー新田サツコラサ、上下町のサドツコイサ寺はサー大寺サツコラサ、和尙さん一人サードツコイサ、お千代サー十八歲サツコラサ、坊さん廿歲サアドツコイサ腹にサー五月サツコラサ、產子が御座るサアドツコイサ云々

松山のお稲荷樣は何か好きだか當てゝ見な、油揚に生のお豆腐に赤の御ぜんが大御すき〳〵

●下總銚子邊

アゝレ見ろやアレ見ろや、向ふのお山アレ見ろや、金で造つた大黑が四十九有るわしや、一ちんげんちよ、二げんちよ、三げんちよ櫻、さくらの下で女郎さ姬が化粧をなさる、何處へなさる、熊野へなさる、熊野の道で、袖一さつ引かれた、誰に引かれた、お萬に引かれた。一日か二日か三日で嫁さろ、何時だか無用よナゝ何たかやようやコゝこゝらで一貫だよ

●岩代

己か御父樣牡丹もちが好きで、昨夕九ッけさ又七ッ二ッのこして袂に入れて、馬に乘るさて、ボタラト落し、取るに笑止か採らぬもをしゝそこなあんぽこたち取てあがれ〳〵。

をえん〳〵榎の下で松浦長者の小娘でないか、下へ白むく中間に黃むく、上さ花色小袖を着せて、シナリ〳〵さお藥師參り藥師坊樣おかよにほれて、おかよよく來た吳れたいものは、かせや叙化粧の道具、又も吳れたい長尺かもじ、入れて結はせてあさから見れば、たぼが三尺島田が四尺、さけた元結が一丈二尺、お千出て見ろお萬出て見ろチヨツト百つうぃた。

●豐州豐田郡

ゆんべよんだ花嫁じよ、何が不足で、おなきやるぞ。何にも不足はこざらんが、ワシの弟の千松が、七ッ八ッから金山へ、一年待てども、戻らぬが、二年まつても戻らぬが、三年ぶりに狀がきて、狀の上書や、何さよむ、千松マメなさかいてある〳〵。

うちのおさッさん、接穗が上手、竹の切株、梅の木ついで、梅は咲く〳〵、櫻は蒼む、蒼む櫻へ、チン子が出來て、產むにやうまれず、おろそなおりず、若しか生れて、娘の子なら、スギにつゝんで、三さころメめて、前の小川にソロ〳〵流す。若しも生れて息子の子なら、上へのぼせて、社杼きせて、下へおろして白足袋はかせて、金の巾着四十二を下げて、前の伯母さん見せてやろ〳〵。

ワシの姉さん三人ござーろ。中でよいのは糸屋でござろ。糸で一番ダテシヨぢやなーいが、ダテでござらぬ、京屋の習ひ。京で帶買つて大阪でくけて、くけめ折目へ七ふさ下げて、それを結んで、花見に出たら、村の若い衆に、だきさめらーれて、帶が切れます、ゆるしておくれ、若しも切れたら、ワシ買ふてまどう。ワシが帶には、クゼツがござる。クゼツあるなら、くどいて聞かせ、梅に黐きてさまれ〳〵。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

時　文

◎川崎大尉　弦齋作　春陽堂版

一乞食の兒、姉の苦心によりて、遂に名譽ある海軍大尉にまで昇進したりといふ談。事實談を少しく飾色したるものなりとか。その故なればにや、弦齋の小說筆法とは、全く異なり。いはゞ兎屋上田屋などの人情本にさも似たり。

◎扇拍子　三遊亭圓朝等講演　東京堂版

圓右の戀路の闇、圓遊のあはゆき、圓朝の袴着等の人情談及落語を收めたるものなり。いづれも興味多くて面白し。

◎新著月刊第二年第三卷　東華堂版

◎新小說第三年第二卷　春陽堂版

新著月刊の本卷に收むるは小說には、都おちは德田秋聲、みだれ心は後藤宙外、二筋道は長谷川胡戀、蛇くひは泉鏡花なり。文壇逸話、梨園、芝居の型、舞臺扇走馬燈等例によりて面白し。

新小說今卷には、泉鏡花の辰巳巷談（例の人殺小說）、藤陰隱士のなさめ椿（其醜陋や厭ふべし。編者何んとなれば此卑猥極まる文字を採用せる。）星の家のはらみ尼あり。雜錄には露伴の女以下數種の隨筆、時報には忍月の雜評あり。

扨て〳〵新作小說の出づると月々に多けれども、いづれも單調にして、嫌味多く世人は既に牛門一派の小說に厭けり。小說は一遍よめば打捨てゝ仕舞ふものと定められて、それで貸本屋がはやつて、雜誌店の賣行惡しきを致す。作者、何程、字を以て金に代ふるの主義なりといへばとて、これではあまり面白からずや。人殺小說、園物小說、卑猥小說は、既に衰微の極の中途まで下れり。講談文學の流行を兎や角いへども、實際、今の木葉小說よりは、講談の方に名文あり、人情あつて面白きなり。

○女界文壇雜俎　（本號〆切まで）

◎婚姻の目的（本多澄雲）　花の園生第八年第四號
◎大和ごゝろ（三輪田眞佐子）　女子の友第十六號
◎縣門の女詩人（武島羽衣）　帝國文學第四卷第二號
◎東京の密賣淫　社會雜誌第九號
◎家庭と學校との關係（三輪田眞佐子）　家庭新聞第三十三號
◎日本の婦人（クレイ、マツコレー）　英文國民の友第二十五號
◎女子の爲に辯ず（津田梅子）　同
◎米國に於ける婦女の過去現在及未來（アントニー）　宗教第七十六號
◎離婚を減ずるの法（定伯居士）　家庭雜誌第百十三號

片　々

◎菊池文部次官　大坂に在りて、人に語りて曰く、大坂に女子大學を設立せんとするものあり、其計畫には、多數の貴顯名士の贊成するものありながら、未だ成立に至らざるは何が故か。而して自分の如きは始めより此計畫には贊成せずと。

◎谷將軍の女子大學論　谷將軍頃日大坂に於て客に語りて曰く『大坂に女子大學を設立するとて、余にも勸めて來た者があるが、余は反對說を述べて贊成しなかつた。大坂に女子大學校を置くは第一土地が適せぬ、且つ日本では大學者の女が出來ても用ひ所がない、女子は幾ら大學士に爲つたとて詰り家政を遣らねばならぬ、是れ我日本の習俗であるから、女子の教育は中等教育で澤山である、今の女子には高等小學校を卒業して居る者さへ少いではないか、女子を教育するには教訓を基とせねばならぬ。』と子爵相應の議論なりと報知新聞はいへり。

◎孝女談の取消し　靜岡縣駿東郡の某の妻、里方の繼父の病を救はんとて、衣替を賣りて金を給すとあつぱれの孝女なりとて、靜岡民友新聞之を傳ふるや、其繼父なりとて病院より正誤文を同新聞に寄せて、毫も此類の事なきを辯ず。爰に至て、孝女談も間違ひとなり了はんぬ。近來の珍事、さりながら、新聞の傳ふるとの信ずべからざる事の多きは、大方此類の如きものなり。

◎女權擴張家の今昔　讀賣新聞、美人の骨と題して、以下の談を載す。曰く、十數年前女權を擴張して帝都に喧轟したる一團の美人軍あり、其重なるものは藤井春湖、福田水琴を始めとして、雲井、渡邊なんど云へる老實々しき女史どもなりしが、春湖は飯屋の娘より身を起して、快辯能く囀り、諸所の演說壇上滑稽無遺慮の女權論を述べて、當時の青年輩に歡迎せられ、觀世物的演說家として殆んど日の下開山の地步を占めたり。水琴女史は下野國沼在の一農家よ

り出で夙〻に教育家となるべき望を起し、最も禮儀に厚くして容易に動かざる風ありしが、一時女權熱に浮かされて終に此軍旗の下に働けり。其趨走應對の遠州流丸出しなるには、人をして殆んど奇異の思をなさしめたり。雲井女史は人も知る薙刀使ひ、言辭圭角を帶びて、膽もまた大なり、嘗て田中智學師が立正閣に寓居し、看板問題に關して居士と衝突を來したる一事は常時頗る有名のものなりき。渡邊女史に至りては大に宗教思想を抱きしが如く、常に言行の一致せん事を勉めて、演說また頗る着實を旨とし、其智識も一見他女史の上に在るを覺えしめたり。以上四女史は雲井女史を除きて皆二九左右の美形たりしに拘はらず、頗る急進的に女權を發揚せんと力めたれども、雜誌「女權」を發刊するに及で、漸く其價値を暴露したれば、遺骸は忽ち市井の間に葬られて名聲亦きくを得ざるに至りたり。然るに頃日聞く所に依れば、福田女史は其後淺草北淸島町に小學校を開き、福田學校の看板を掲げて、兎に角初志を維持し、雲井女史は多年流涙の後神奈川縣監獄署の何とやらを志願して今其職に鞅掌せり渡邊女史は幾くもなく、樺山資紀伯の知を得て、同家の保姆に聘せられ、現に同家の子女を訓へつゝありと云ふ。斯くして美人の骨は漸く道路に曝されざるを得たるも、只日の下開山と聞えし春　女史の消息のみとんと聞き得ざるこそ遺憾の至りなれと、當時の歡迎員たる生き殘りの老書生は喞ちたりとか。

◎英國現在の女流小說家「評論之評論」の報ずる處によれば英國現代の女流小說家は

小說家	生地	處女作
グランド女史	(愛蘭土)	「アイデアラ」
ブラッドン孃	(倫敦)	「アウドレー孃の秘密」
バル子ット夫人	(マンチエスター)	「ロウリーの少女」
カーレー孃	(倫敦)	「子リーの記念」
ホップス女史	(亞米利加)	「情けと義理」
クリッフォールド夫人	(西印度)	「ケース夫人の秘事」
コールレリ女史	(以太利(?))	「兩世界の傳奇」
ダウト子ー女史	(ポルツマウス)	「白聖城の下に」
エドワーズ孃	(イプス井ッチ)	「海邊の藁屋」
ハーラデン女史	(ハムプステッド)	「夜船」
リントン夫人	(ケス井ック)	「埃及人アゼス」
ライオール女史	(ブリフトン)	「待てばこそ」
マックオイド夫人	(倫敦)	「先づあやまる」
ハーリソン夫人	(エヴアスレー)	「ローリマー夫人」
マーリヤアト女史	(ブリフトン)	「戀のもつれ」
ミード夫人	(愛蘭土)	「ベ子ヂクト大法皇」
モーレスウォルス夫人	(和蘭)	「戀と夫」
オウ井ダ女史	(米佛蘭西)	—
パーア女史	(倫敦)	「一伍一什」
シュライチル女史	(南亞弗利加)	「亞弗利加の農夫」
サージエント女史	(デルビイ)	—
スチール女史	(ハアロウ)	「水の面」
ワーアド夫人	(タスメニア)	「プレザートン孃」

など其主なるものなりといふ、玆に注意すべきは此等女作家の多くは靜に搖籃の眠を破つて、光明の中に半生を送りたるものにあらずして、或は夫に別れ子に別るゝなど、大抵悲慘の歷史を有せざるはなく、尙又其多數は多くは殖民地若くは島國のものにして、一言には月にも花にも人にも世にもなべてならぬ經驗を有するものなりといふ。（國民新聞）

◎坪內逍遙氏曰く　女子の免れがたき常習は虛飾と虛言となり、女子の大多數に就いて言へば、女子は飾ることを悅ぶ動物、又いつはることを辭さすゝ動物なり、かくはいへど、飾るにも、いつはるにも、善惡兩義あり、虛言にも無邪氣の虛言あり、飾にも無邪氣の飾あり、さればいつはる、かざるといふも、强ちに女子を貶したる謂にはあらず、且や男子とても、其多くは、甚たしく虛飾名聞を好み、又間々女子よりも甚しき大虛言を吐くとあり、故に惡德として此二習を特り女子に歸るにはあられど其本來の性より見て、孰れが此二習に因深かと言へば女子は殆んど先天的に此の二習癖に傾けりと言ふを得べし、蓋し女子は何の爲にする所なきも、恐らく粧飾することを悅ぶべし、已れを愛する者の爲にのみかたちづくるとは限りがたし、未だ東西を分かぬ頃より、赤きを好み、派手なるものを悅ぶなど其の習癖の端を示すにあらずや、又をさな子をあやすにも、或は人と戲れ遊ぶにも、要なき虛言を口にする癖あり、女兒のすなる「誰々さんポカーン」の如きは、眞に無邪氣の戲れながら、男兒の悅ばずして女兒の悅ぶ戲れなり、其の他かゝる例は多ながら、一々例證は擧げずとも、女子が虛言を悅ぶといふことは、古人も屢々說きたることにて、殆ど爭ふべからざる事實なり。と實に古來此種の說を聞く、而して此は男子より見たる見解に過ぎずして、皮想に馳せ、必ずしも女子の眞性を盡くすものに非ず。逍遙氏なほ此說を執るは何故ぞ。

◎日本主義の一夫多妻說　曩きには湯本某の畜妾說あり、近くは亦木村某の一夫多妻說を聞く。後者の說に曰く、多情の男子は一人の女子に眞情を傾け盡くすと能はざるとあらば、他の妻を重ぬるも可、又多數の婦女の言を受くる時は皆娶りて可なりと。不潔卑陋の說なるかな。吾人之を聞いて駁論一篇を草したりしも、彼の怪說の迚も正氣の沙汰とは思はれず、あまりに馬鹿々々しくて相手にするに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

足らぬを思ひて、之を棄却せり。嗚呼日本主義論者は、所謂東部君子國の男子の爲に肉慾の放縱を辯護せんとするものか。謚ずるに彼等は、國風民俗を偶像とし て妄信し、所謂國粋なるものを辯護せんとするが爲めに、勢ひ之に至るものならんのみ。門徒宗の門徒等が、門跡の數妾を蓄へ、遊里に流連荒亡するを聞きても お鬱晴らしの爲、御尤千万の事となすといふ。日本主義論者の一夫多妻説も亦此に類似する一の迷信に出づるものに非らずや。（曲浦）

◎鶴岡町の莊内羽二重工場　の明治三十年六月以降十一月迄の女工成績表によるに、女工一日の賃錢及賞金平均額二十四錢九厘强を最多額とし、七厘四毛强を最低額となす。女工數は見習生共に八十一人内織工七十人、糸繰管巻工十一人、年齡は明治十一年より仝十六年までの出生者最も多く、織工の最長年齡は慶應元年生にして、最幼者は明治十八年生なり。工女の多數は士族にして、平民ば甚た尠なく、而して皆相應の家庭に生活す。工塲内部の風俗は善良と迄稱する能はざるも決して亂雜ならず、職業に勉强す。勞働時間は四月一日より九月三十日まで午前六時始午後六時終。十月一日より三月卅一日まで午前六時半始午後五時終。始業時間までに出塲し、一ヶ月中欠くることなきものには、定刻賞與として、貳拾錢を與ふ。特別賞與としては、最初は、六日に一疋織り上げたるものには貳拾錢づゝ賞與せしも、現今は一ヶ月に五疋以上織りたるものに五十錢を與ふることゝせりといふ。

◎雛人形の相塲　桃櫻、花は盛りに、頃は人形天皇の御宇とかよ。彌生三日の雛節句も、既に近づけば、十軒店及び淺草茅町の雛市も此月二十日より開市の筈其相塲は昨年より二割高と仲間中には唱へ居れど實際不景氣のため賣先は十分ならず、昨年と大差なき摸様なり、今其相塲を聞くに▲内裡雛一組誂へ上等の分二十圓内外より上等五圓内外並物一圓五十錢より一圓八十錢位▲五人雛一組普通の下方と火焔太皷等の附屬せしもの極上等十圓内外、上五圓内外並一圓五十錢内外▲隨神、官女、衛士、雨乞小町、和歌三神等の三人立或は二人立上等一組八圓内外、普通四圓内外、下等一圓三十錢より一圓五十錢まで▲小町、浦島、乙姫等の浮世人形一箇二十五錢内外、並一圓内外▲紫宸殿は内裡雛、官女、奏樂、隨神等一切附屬して極上等五十圓内外より下等物十八圓内外▲掛地は絹表具一幅内裡雛及び官女、五人雛等の押畫にて上等五圓内外又紙表具は一圓より五十錢内外なり

◎日本女子の發明者數　我國にて今日までの女子の特別發明は三十五種にして、特許總數の一分强に當り、發明の種類中には、織物用機械及紡績用機械又は、製糸用機械等なり、其多分は家事經濟の具なるより。これにつきて、「時報」欄内の「米國婦人の發明」を參照せよ。

◎郵便電信發受心得　今般遞信省告示第三十七號を以て、郵便電信發受心得を發布せられたり。其中、切要と認むるものを揭載して、左に示す。

●郵便の部

一　郵便物の肩書は國郡市町村番地を記すべし、府縣名は一國にして數府縣に分屬する地方、（たとへば武藏丹波肥前の如き）の外記載するに及ばす。三府五港其他市制施行地の如きは國名をも要せす。

二　郵便物の表書は國郡市町村の肩書を成るべく大きく鮮明に記すべし、番地氏名は小さく書して差支なし。

三　差出人受取人とも雅號變名等を用うべからす。

四　郵便物の羅馬字には成るべく日本字をも併書すべし。

五　郵便物受取人居住地の所轄郵便局名の知れ居る塲合には其表書に、何國何郵便區何町村と記すことを可とす。

六　郵便切手は封筒表面の左上隅に貼附すべし。

七　郵便物の表面には郵便日附印を押捺するに足るべき餘白を存すべし。

八　急を要する郵便物は郵便函に投入せす、郵便局に持參すべし。

九　鐵道停車塲附近にては、其鐵道に依り遞送すべき郵便物を差出し遠達を要するときは停車塲に設けたる郵便函に投入すべし。（但し注意して差向方角によりて上り便、下り便を區別すべし。）

●電信の部

一　受信人の住所は簡明にして配達に差支なきを期し、敬稱等の不必要の文字を省くべし。

二　發信人の住所は成るべく省略すべし又氏名を成るべく簡單にし或は全く記載せざるも差支なし。

◎露伴子　新小説に、女、妻、妾、寡婦、再婚、美女、醜婦、美女と醜婦、女の衣、髮つきて思のまゝの奇を運ふ。面白きもあり、面白からざるもあり、兎に角女といふものは中々に男には知れ易からぬものかな。子いふ。女はおしなべて其心やさしく望み小さく、爭ひをきらひ、いつはりを遂くることなし。と。其再び人に嫁ぎたるが我から女を弱くして、身をつゝしみたるこそ哏にあはれなりといへるは、よくもいはれたり。

◎アレナ雜誌　上のアントニー氏米國婦人の將來を論する中に曰く男子が婦人を以て單に爐邊の友となすに止まらずして國家の政治を議するに當りて、共同盟として、之と過するの日の來らむとは確く信じて疑はす、而して一たび此境に達して、始めて兩性間に完全なる伴侶の實を擧ぐるを得、理想的共同の好果を收むるを得て、以て人立發達の極頭に到達するを得べきなりと。

むめの花もの氣に入らぬけしきかな　越人

時報

◎小松若宮の御婚儀　小松若宮依仁親王殿下には二月十日岩倉公爵の令嬢周子さ御結婚あらせられたり。新妃殿下は明治十四年御生誕にて華族女學校卒業にて在す。

◎福島縣桑折町私立裁縫女學校　福島縣伊達郡桑折町にては、有志家の盡力にて一私立裁縫女學校を設立せんさす。其假規則によれば、修身女禮及裁縫また茶の湯活花等をも設け、速成は六ヶ月普通は三ヶ年の修業科程なりさいふ。

◎長崎玉の浦女學校移轉式　二月八日長崎市大工町なる女學校は其移轉式を行ひ、頗る盛會なりし由。

◎女子夜學部　靜岡縣周智郡久努西村可睡の青年益友會は會員二十餘名あり、毎夜學術の勉强中なるが、今度更に女子部を設け、掛川高等小學校教師鵜島こう子を教師に聘用せんさて、夫々計畫中の由。

◎佐渡の酒仙郷　佐渡外海府村大字賴島にては、一郷大人も小兒も悉く酒客ならざるはなく、二三歲に至れば父母子守等は之れに酒を飮ましめて怪まず、されば七八歲の小兒にても既に三合以上の酒量あり。況して大人に至りては、三人にて一斗以上の酒を飮みて平然たるものも少なからず、殊に甚しきは妙齡の婦女子にして他より酩酊して歸り、前後を忘却するに至るも人之れを怪まずさ云、珍無類の酒仙郷さ謂ふべし。(日本)

◎矯風大演說會　二月十一日午後六時より神田青年會館に於て東京婦人矯風會大演說會を開きたり。辯士は萬國婦人矯風會特派遊說員クラヽ、パリッシュ孃前商工局長安藤太郎、米國文學士片山潛、村井知至等の諸氏にして、少年音樂の奏樂内外婦人の唱歌等もありけり。

◎節婦　茨城縣東茨城郡伊勢畑村靑木新太郎妻イシ(二十五)は富家の女にして婚後二年夫天刑病に罹り、產を觀る能はず爲に貧苦に陷りしも、更に節を變へず、自ら勞して、夫を養ふこ先後八年に及ぶさいふ。

◎同　福島縣大沼郡江澤村村星某の妻ジュンは、十四五年間天刑病の夫に事へて能く婦道を守り、且舅に事へて至孝にして一村の龜鑑たりさいふ。

◎孝子　德島縣平民河野幾三郎の長男菊三郎(九年)父の船乘業にて不在勝なるより、肺病の母親の看護一切を引受け、自ら炊事をもなし、母に與へて後學校に通ひ、至孝の情傍人をして感賞に堪へざらしむ。

◎臺灣女囚の增加　臺北監獄署にては、近時著しく女囚の增加を來し、從來の女監取締人數にては、到底不足なるより、今回一兩名を增し、一層嚴重に取締を爲す由なるが、女囚の多くは內地婦人にして、土人の女囚は實に稀れなる位なりさ云ふ、而して其罪質は過半竊盗なるやに聞く。

◎海外女界

◎米國婦人の發明　米國に於ける特許の狀況を觀察せば、一は米國女子の氣力を表明し、一は米國工業の隆盛を想起せしむる者あり。一七九〇年より一八八八年に至る間米國に於て、女子に與へたる特許の數は、六十八年に僅かに五十に過ぎざりしに、其後女子發明の精神は著しく發達し、後の三十年間に於て二五〇〇に上れり。人或は是等の發明は專ら家事經濟の具、若くは殊に女性に關する者ならんさ思はんも、實は然らず、實に彼の中には機關車或は鐵路上倒木破壞機の改良に對して、特許を得たる者あり。或は戰鬪艦の改良に對して、特許を得たる者あるなりさいふ。(中央新聞)

◎米國の一淑女日本軍艦に命名す　目下米國クランプ造船所にて製造中なる、日本軍艦笠置號は、其功略成りて、去る一月二十日其進水式及命名式を擧行したるが、之が命名母たるなるの名譽を荷ひし一女子は、實に米國海軍卿ロング氏の令孃ミス、ヘレン、ロングなり。當日の命名式は、日本式を用ゐて、ロング孃は美麗なる日本服にて出裝し、艦の水面に浮ぶさ同時に、孃は艦名を呼び上げて、傍なる絹の袋を開きて、一羽の白鳩を飛ばしたりさいふ。

◎マウントホヨーク女子大學　にては、此程ミス、ヘレン、ゴールドより、母氏の紀念さして五千弗の奬學金の寄附を受けたり。この奬學金は、別に何年の條件もなく、たゞ學校にて優等さ認むる女生に與ふるものありさいふ。

◎バヾリア大侯　の公主テレサには、此程ミューニッヒ大學より哲學博士の名譽稱號を受けたり。公主はまた皇立科學會院の正員なり。

◎亞米利加大平洋海岸の二婦人　ミス、ヒクシュはモントレーなるポイント、ピナス燈臺長なり、ミス、フーラーはタコマの港長たり。後者の如きは、頗る事務に長じ、港灣の處理に於て甚だ男子の右に出づるものありさいふ。

◎ラマバイ女史米國に赴く　印度の女傑ラマバイ女史は此程米國に赴きたり。其用向は、女史が遂にケヂヤチンに設立せるシヤンダ、サダンなる寡婦救濟女學校は、兼て十年を期して、米國なるラマバイ協會より補助せられあるものなるに、其期限の來三月にて滿つるを以ての故なり。

◎希臘國皇女カイチラニ　は去年十一月米國より布哇に歸り、同島有名の製糖家ジョルジ、ダビス氏さ結婚ありたりさなん。

◎女子聽講生　獨逸は女子の專門教育に對して冷淡なりさの世評あるにも拘らず、伯林の「フリドリッヒ、ウイルヘルム大學」に於て此各期開講期に列する女子聽講は頗る多く、未曾有の盛況にして、內二百人は他の諸學校を卒業し、正規の順序を踏みて入學したるものなりさいふ。而して其聽講學科は一ならず、法學、醫學、哲學等に及び、其他大抵の講義室に女子を見ざるとなき有樣なりさいふ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

吾社が昨三十年九月十日發兌第四百四十九號紙上を以て婦人社會學研究の爲二十項の問題を擧げて、各地女風俗の調査報告を大方諸君に望む處ありしが、其後幾多の報告に接せしも、婦人問題や事頗る宏大、此等は未だ万分一をだに盡くすものに非ず。由て更に再び爰に調査項目を列擧して、投寄の報告、これより益々多からん事を希望す。

女學雜誌記者識

各地女風俗調査項目

一　男女交際の有樣（未婚の子女の交際に關する世間の制裁は嚴なるか寛なる乎。男尊女卑か否や等）

二　家庭に於ける女兒の狀態（家風庭訓の及ぼす教育上の特色ありや。女兒の遊戲、玩具、手傳等に於て目立つものありや等）

三　主婦の義務、勢力、財產等に於ける特別の狀態

四　下女の風習、其雇人の方法規約、彼等が風儀、及び下女に對する家族の態度

五　女子嗜好の傾向（茶、花、琴、歌、又は義太夫、芝居、小說、常盤津、清元、三味、踊、賭博弄花等、其他の遊戲

六　婦女子勞働の狀態（勞働の時間。一日の平均賃錢。幼女の勞働者ありや、一般婦女子の勞働增加せるや。工女の風儀。婦女の從事する職業の種類。婦女の勞働過度なることなき乎。男子の勞働に比較して輕重如何。婦女が職業を撰擇する自由の有無。婦女勞働者は生計を支へ得るの賃錢を得る乎等其他）

七　婦人慈善事業の有無、組織、景況、及び勢力

八　婦人會の有無、組織、景況、及び勢力（女同士の談話交際遊戲、又は觀音講の類を含む）

九　婦女子の教育に關する一般世間の意向、女學校の景況、學齡女兒就學の割合等

十　女學生の風紀、修學者の增減、其志望の傾向等（女學生の主婦たる家庭、其歸鄉後の實蹟等を含む）

十一　婚姻、離婚の方法、及び再婚に對する世間の思惑（早婚の弊なき乎、夫婦年齡の懸隔甚しき者なき乎、初婚大凡の年齡、婚姻の儀式簡略ならざる乎等）

十二　女子の風俗（年齡に準ずる頭髮の結び風、帶の結び方、涅齒眉剃は何程まで衰へし乎。茶屋女、私生兒、密賣者の增加、婦人の飲酒喫烟。ここに交通、教育、興業等によりて影響されし近年女風の變化等）

十三　殊に目立ちたる女の服裝、はき物、手廻道具等

十四　宗教上に於る婦女子の信仰、事業、勢力（女子の特に歸依信仰する神佛の名稱、願かけ、願文、お禮參り、及び寺院祭禮等に於ける女子の風等を含む）

十五　尼、巫女、妾等となる婦人（土地の婦女多き乎他所のもの多きか、貧窮の爲か風習の爲か、又は醜業者より轉ずるもの多きか等）

十六　女子の言葉に關する特別の氣付き

十七　女先生、女先輩、又は有力者にして、其地方の婦女子を感化するもの並に其姓名小傳

十八　婦女子に關する有名の古跡、古碑、並に其小史

十九　婦女子他國への出稼の有無、增減、行先（何地方に多く行くやの事）及歸宅後の狀態

二十　密賣者及び藝娼妓の稱呼並に此等に對する憎惡の輕重（醜業に對する勸誘の嫌ひあらざる乎、醜業者に對する特別の嫌の有無等を含む）

◎寄答者への注意

一　紙上に記載を要せらるゝ仁は別に本名及び住所を添られたし

一　寄答の原稿を女學雜誌女學欄に掲載したる時は、寄答者に該號の雜誌三部を進呈す

一　報告寄送は凡て左の名宛たるべし

東京麴町區下六番町六番地

櫻井鷗村

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治女學校義捐金募集告白

明治女學校は、今を距る十又四年前、島田三郎、田口卯吉、木村熊二、巖本善治等が、發起創立せしものなり。時に、民間未だ私設獨行の女學校あるなく、但だ外國傳道會社の管理に係るものありしのみ。同志切りに之を遺憾とし、深く國躰に基づき、兼て日進文化の學術に適應せる、私立の女學校あらんとを熱望し、大隈伯、澁澤榮一君、其他、朝野諸名士の協賛を得て、創建せり。爾來、十四年、孜々、育英に盡力し、前後、入門生、一千五百名に超ゆ。此を以て、精神次第に貫徹し、校友四方に起り、將に擴張の機を決して天下に請ふ所あらんとする時、圖らざりき、去々年二月、隣家火を失し、校舎悉皆類燒に罹り、十年の苦心、一朝烏有に歸せり。於此乎、天下同情の士、呼ばずして應じ、猶つて義捐寄捨せらるるもの、太はだ多し。就中、紡績會社數百の工女、相約して、其賃金の貯蓄を寄附せらるるあり。有志婦人、四方に訴へて、一大慈善市を開かるるあり。甚しきは、結髪を廢して、其費を寄せらるるもの、若くは、食を斷つて、汗血の喜捨を寄せらるるものあり。感慨眞とに禁じがたし。如斯して、合計金六千圓を得、外に、勝海舟先生の武道道場、大隈伯の鐘樓、アリスミラー孃の外國教師館、ハーツフォルン孃發起紀念館、鈴木眞一氏の敎場一室、文學音樂會の音樂敎場一室、中川嘉兵衛氏の默想室、等の建築預約を得たり。此に於て、災後一周年を期とし、東京府下北豐島郡巣鴨村に、校地五千六百坪、建家(二階造西洋館及日本家)一百二十坪を得たり。偏へに、是れ、天下仁人非常の慈惠による。今にして、吾校は、舊に劣らざるの隆盛を復するを得たる也。

因て熟ら思ふに、今の時は、則ち昔時に異る。各府縣高等女學校新たに起り、四方到る處に、女子の普通教育あり。形勢毫も十四年前の寂寥たるに似ず。盖し、女子普通教育の器關は、略ぼ具備せりと云ふべし。夫れ、明治女學校の初て起り、爾來天下仁俠の士の協賛を辱くせる所以のものは、自から特種の趣意あるべし。若し、四方普ねく供給し得る通常容易の盡力にして止まば、必らずや恐る、熱情同感の知己に孤負せん。故に、知る。今や更に一段の難を冒し、當に一歩進向の責務に任ずべき機會に立てりと。

之を以て、明治女學校第二期の敎育方針として、今後將來に盡力すべきは、一に、有限若干名の女生に特種の普通敎育を施すこと、二に、高等敎育の課程を漸次に擴張し、他日女子大學の地位に到達せしめんこと、是れ也。其一、特種の普通敎育とは、家庭及脩己の鍛練に重きを置くべき普通敎育にして、生徒多數の女學校に於て施こしがたきものなり。其二、高等敎育は、十年前來既に施授したるものなれども、今後更に擴張し、彼の高等女學校卒業後の有志をして、遺憾なく學修せしむべき科程を具へんことを望むにあり。夫れ此の如き二箇の希望は、今の時に於て尙ほ稀有に屬す。只管らに、仁俠の士の贊助を仰ぐにあらざれば、遂行極めて難し。則ち廣く校友を募り、着々方針を進め、歩々堅實の基礎を置えて、敢て退轉せざるの進歩を了せんとを期す。茲に初て擴張の途に上らんことを決定し、先づ基本金三万圓の義捐を各地方の有志に請はんとするなり。仰ぎ願くは、天下博愛義俠の仁士、仔細に吾校多年の精神を吟味せられ、幸に同情を寄せ、惠然として贊助の恩を施こし玉へと云ふ。

明治三十一年二月

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY